

加漢字

御
筆
先

（草稿）

前言

父母神以大和方言所寫下的御筆先，對當時的人來說，單就文字表現方面是一本淺顯易讀的原典。此「加漢字 御筆先（草稿）」是翻譯課的有賀善德老師與我參考相關資料，將御筆先盡可能附加漢字，以現代日文的方式來表現，方便已習得日語的教友閱讀。

對完全以漢字為書寫工具的台灣人來說，我們相信附加漢字對理解御筆先有絕對的助益。但由於原文常出現一語多意的情形，附加漢字之後也可能使讀者無法充分掌握其原意。因此在此提醒，要了解御筆先的真意，還是必須親自詢問講師、教會會長，或參考已出版的御筆先研究等相關書籍。

這本「加漢字 御筆先（草稿）」目前仍處於草稿階段。對於內容有疑問及建議之處請不吝指教。

匡宇

立教一七六年（二〇一三年）十月

E-mail: kirbyshieh@yahoo.co.jp

第一号

七十二歳老女

一八六九年(明治二巳年) 正月より

1 万代の世界一列見晴らせど
胸の分りた者は無いから

2 其の筈や説いて聞かした事は無い
何も知らんが無理で無いぞ哉

3 此度は神が表い現れて
何か委細を説いて聞かする

第一号
4 此処大和のちばの神館と
言つていれども元は知るまい

5 此元を詳しく聞いた事ならば
如何な者でも皆恋し成る

6 聞きたくば尋ね来るなら言て聞かそ
万委細の元の因縁

7 神が出て何か委細を説くならば
世界一列心勇むる

8 一列に早く救けを急ぐから
世界の心勇め掛かりて

9 段々と心勇んで来るならば
世界世の中処繁盛

10 此先は神樂勤めの手を付けて
皆揃て勤め待つ也

11 皆揃て早く勤めをするならば
側が勇めば神も勇むる

12 一列に神の心がいずむなら
物の立毛が皆いずむ也

13 立毛のいずむ心は気の毒哉
いずまん様と早く勇めよ

14 立毛が勇み出る様と思つたら
神樂勤めや手踊りをせよ

15 此度は早く手踊り始め掛け
此が合図の不思議なるぞ哉

16 此合図不思議と言つて見えて無い
其日来たれば確か分るぞ

17 其日来て何か分りが付いたなら
如何な者でも皆が感心

18 見えてから説いて掛かるは世界並
見えん先から説いて置くぞ哉

19 此先は上たる心段々と
心静めて和睦なる様

20 此和睦難し様にあるけれど
段々神が守護する也

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

21 此世は理で迫めたる世界也
何か万を歌の理で迫め

22 迫めるとて手差しするでは無い程に
口でも言わん筆先の迫め

23 何も彼も違わん事は良けれども
違い有るなら歌で知らする

24 知らしたら現れ出るは気の毒哉
如何な病も心からとて

25 病とて世界並では無い程に
神の立腹今ぞ現す

26 今迄も神の言う事聞かんから
是非なく思て現した也

27 此程の神の残念出てるから
医者も薬も此は適わん

28 此ばかり人並やとは思つなよ
何でも此は歌で迫め切る

(9)

(8)

29 此度は屋敷の掃除すきやかに
仕立てて見せる此を見てくれ

30 掃除さいすきやかしたる事ならば
知りて話して話する也

31 此迄の残念なるは何の事
足の跛が一の残念

32 此足は病と言つてゐるけれど
病では無い神の立腹

33 立腹も一寸の事では無い程に
積り重なり故の事也

34 立腹も何故なると言つならば
悪事が退かん故の事也

35 此悪事すきやか退けん事にては
普請の邪魔に成るとこそ知れ

36 此悪事何はしふとい物やとて
神が迫め切り退けて見せるで

(11)

(10)

37 此悪事すきやか退けた事ならば
足の跛もすきやかと成る

38 足さいかすきやか治りしたならば
後は普請の模様ばかりを

39 一寸話正月三十日と日を切りて
送るも神の心からとて

40 側な者何事すると思えども
先なる事を知らん故也

41 其日来て見えたるならば側な者
神の言う事何も違わん

42 今迄は神の言う事疑うて
何も嘘やと言つていた也

43 此世を創めた神の言う事に
千に一つも違ふ事無し

44 段々と見えて来たなら得心せ
如何な心も皆現れる

(13)

(12)

52 万代に世界の処見渡せど
あ 悪しきの者は更に無いぞ哉

51 今迄は内なる事をばかり也
い ま 今 内なる 事 ばかり 也
も う 此 からは 文句 変る ぞ

50 此話他の事では無い程に
こ の は 話 他 の 事 で は 無 い 程 に
神 一 条 で 此 我 が 事

49 細道を段々越せば大道哉
ほ そ み ち だ ん だ ん こ
こ れ 細 道 を 段 々 越 せ ば 大 道 哉
此 が 確 かな 本 道 で あ る

48 未だ見える火の中もあり淵中も
ま だ み え る 火 の 中 も あ り 淵 中 も
其 を 越 し た ら 細 い 道 有 り

47 山坂や茨畔も崖道も
や ま さ か い ば っ ぺ ん も け り だ ん も
剣 の 中 も 通 り 抜 け た ら

46 此先は道に例えて話す
こ の さ き み ち に た と 例 え て 話 す
何 処 の 事 と も 更 に 言 わ ん で

45 万代の世界中を見渡せば
ま ね の せ か い じ ゅ う み わ た せ ば
道 の 次 第 も 色 々 に 有 る

(15)

(14)

60 此子供二年三年仕込もうと
こ の こ ども に ね ん さん ね ん し こ
言 っ て い れ ど も 神 の 手 離 れ

59 段々と神の言う事聞いてくれ
だ ん だ ん か み の 言 う 事 聞 い て く れ
悪 し き の 事 は 更 に 言 わ ん で

58 此先は内を治める模様立て
こ の さ き うち を お づ め る も よう た て
神 の 方 に は 心 急 き 込 む

57 此からは長い道中道すから
こ れ な が 道 中 道 す か ら
説 い て 聞 か す る 篤 と 思 案 を

56 此度はもう確かなる参り処
こ の た び た し 参 り 処
見 え て 来 た ぞ え 得 心 を せ よ

55 今迄は長い道中道すから
い ま 迄 な が 道 中 道 す か ら
余 程 退 屈 し た で あ ろ う な

54 此先は心静めて思案せよ
こ の さ き こ じ め て し ゃ ん せ よ
後 で 後 悔 無 き 様 に せ よ

53 一列に悪しきと言つて無いけれど
い ち ゅ う つ 悪 し き と 言 っ て 無 い け れ ど
一 寸 の 埃 が 付 い た 故 也

(17)

(16)

68 五人有る中の二人は内に置け
ご じん あ る な か の 二 人 は 内 に 置 け
後 三 人 は 神 の 引 き 受 け

67 日々心尽した其上は
に ち に ち こ じ め た そ の 上 は
後 の 支 配 を 万 任 せ る

66 此とても難し様にあるけれど
こ れ と ても 難 し 様 に あ る け れ ど
神 が 出 た な ら 貰 へ 来 る ぞ 哉

65 此からは心確り入れ替えよ
こ れ か ら こ じ め 確 り い れ 替 え よ
悪 事 払 っ て 若 き 女 房

64 今年より六十年は確りと
こ ね 年 より 六 十 年 は 確 り と
神 の 方 に は 確 と 請 け 合 う

63 我身にはもう五十やと思えども
わ が み に は も う 五 十 や と 思 え ど も
神 の 目 に は 未 だ 先 が 有 る

62 此世は悪事混じりであるからに
こ の よ う 悪 事 混 じ り で あ る か ら に
因 縁 付 け る 事 は い か ん で

61 思案せよ親が如何程思つても
し ゃ ん せ よ お や が い か 程 思 っ て も
神 の 手 離 れ 此 は 適 わ ん

(19)

(18)

69 万代よろずよの世よ界せかいの事ことを見晴みはらして
心こころ静しずめて思案しあんしてみよ

70 今いま迄までも神かみの世せかい界かいであるけれど
仲立なかたちするは今いまが初はじめ哉や

71 此これからは世せかい界かいの人は可ひと笑おかしがる
何なんほ笑わらても此これが第だいいち一

72 世せかい界かいには何事なにことすると言いうであろ
人ひとの笑わらいを神かみが楽たのしむ

73 銘々めえめえの思おもつ心こころはいかんでな
神かみの心こころは皆違みなちがうでな

74 前生ぜんじゆうの因縁いんねん寄よせて守護しゆごする
此これは末代まつだい確しかと治おさまる

第二号

一八六九年（明治二巳年）三月

七十二歳老女

1 此からは往還道を付け掛ける
世界の心皆勇めるで

2 上たるは心勇んで来る程に
何時に来る刻限が来た

3 茶摘んで後刈り取りてしもたなら
後い出るのは陽気勤め哉

4 此勤め何処から来ると思ふかな
上たる処勇み来るぞ哉

(25)

5 段々と神の守護と言つものは
珍し事を皆仕掛けるで

6 日々に神の心の急き込みを
皆一列は何と思てる

7 何にても病痛みは更に無し
神の急き込み手引きなるぞ哉

8 急き込みも何故なると言うならば
勤めの人衆欲しい事から

9 此勤め何の事やと思ている
万救の模様ばかりを

10 此救け今ばかりとは思ふなよ
此末代の口記なるぞ哉

11 一寸話逆上せかてき言っている
病では無い神の急き込み

12 段々と眞実神の一条を
説いて聞かせど未だ分り無い

(27)

13 早々と表出ようと思へども
道が無うては出るに出来るん

14 此道を早く付けよと思へども
他なる処で付ける処無し

15 此道を眞実思う事ならば
胸の内より万思案せ

16 此話何の事やと思ている
神の打ち分け場所急き込む

17 此道が一寸見え掛けた事ならば
世界の心皆勇み出る

18 何にても神の言う事確と聞け
屋敷の掃除出来た事なら

19 もう見える横目振る間も無い程に
夢見た様に埃散るぞ哉

20 此埃すきやか払た事ならば
後は万の救け一条

(29)

(28)

21 此先は段々勤め急き込んで
万救の模様ばかりを

22 世界中何処が悪しきや痛み処
神の道教せ手引き知らずに

23 此世に病と言つて無い程に
身の内障り皆思案せよ

24 日々に神の急き込み此救け
皆一列は何と思てる

25 高山のお池に湧いた水なれど
出端は濁り芥混りで

26 段々と心静めて思案する
澄んだる水と変り来るぞ哉

27 山中の水の中間入り込んで
如何なる水も澄ます事也

28 日々に心尽する其方は
胸を治めよ未は頼もし

(31)

(30)

29 此からは高山池い飛び入り
如何な芥も掃除する也

30 芥さいすきやか出してしもたなら
後なる水は澄んである也

31 此からは唐と日本の話する
何を言つとも分り有るまい

32 唐人が日本の地い入り込んで
儘にするのが神の立腹

33 段々と日本救ける模様立て
唐人神の儘にする也

34 此先は唐と日本を分けるでな
此分りたら世界治まる

35 今迄は上たる心分らうで
世界並やと思つていた也

36 此からは神が体内入り込んで
心速やか分けて見せるで

(33)

(32)

37 日々に寄り来る人に断りを
言えば段々尚も増すで

38 如何程の多くの人が来たるとも
何も案じな神の引き受け

39 珍しい此世創めの甘露台
此が日本の治まりと成る

40 高山に火と水とが見えてある
誰が目にも此が見えんか

41 段々と如何な話も説いてある
確かな事が見えてあるから

42 幸せを良き様にとて十分に
身に付いて来る此を楽しめ

43 何も彼も強欲尽く其上は
神の立腹見えて来るぞ哉

44 段々と十五日より見え掛ける
善と悪とは皆現れる

(35)

(34)

45 此話何処の事とも言わんでな
見えて来たれば皆得心せ

46 高山の日本の者と唐人と
分ける模様も此も柱哉

47 唐人と日本の者と分けるのは
火と水とを入れて分けるで

第三号

七十七歳老女

一八七四年(明治七戌年) 一月より

1 此度は門の内より建ち物を早く急いで取り払いせよ

2 すきやかに掃除仕立てた事ならば縄棟急ぎ頼みいるぞ哉

3 真実に掃除をしたる其後は神一条で心勇むる

4 段々と世界の心勇むなら此が日本の治まりと成る

(39)

5 今迄は何様の事も分り無い此から見える不思議合図が

6 来ん者に無理に来いとは言つて無し付き来るならば何時迄も良し

7 此からは水に例えて話する澄むと濁りで悟り取る也

8 真実に神の心の急き込みは真の柱を早く入れたい

9 此柱早く入れよと思えども濁りの水で処分らん

10 此水を早く澄まする模様立て水囊と砂に掛けて澄ませよ

11 此水囊何処に有るやと思つなよ胸と口とが砂と水囊哉

12 此話速やか悟り付いたなら其儘入れる真の柱を

(41)

13 柱さい確り入れた事ならば此世確かに治まりが付く

14 此話悟りばかりである程に此悟りたら証拠試し哉

15 此世の人間創め元の神誰も知りたる者は有るまい

16 泥海の中より守護教え掛け其が段々盛んなるぞ哉

17 此度は救け一条教えるも此も無い事創め掛けるで

18 今迄に無い事創め掛けるのは元拵えた神であるから

19 日々に神の話が山々とつかえてあれど説くに説かれん

20 何にても説かれん事は無いけれど心澄まして聞く者は無い

(43)

(42)

28 人の物借りたるならば利が要るで
早く返済礼を言つて

27 此を見て何を聞いても楽しめよ
如何な話も皆此道理

26 早々と見える話である程に
此が確かな証拠なるぞ哉

25 目に見ん神の言う事為す事は
何をすると一寸に知れまい

24 何も彼も如何な話も説く程に
何を言つても嘘と思つた

23 此試し速やか見えた事ならば
如何な話も皆真やで

22 此世の確か試しが掛けてある
此に間違い無いと思えよ

21 速やかに心澄まして聞くならば
万の話皆説き聞かす

(45)

(44)

36 今の事も言うでは無い程に
先の往還道が見えるで

35 人間は浅ない者であるからに
末の道筋更に分らん

34 出がけから如何な大道通りても
末の細道見えて無いから

33 銘々に今さい良くば良き事と
思つ心は皆違つでな

32 真実に人を救ける心なら
神の口説きは何も無いぞ哉

31 親々の心違いの無い様に
早く思案をするが良いぞ哉

30 早々と神が知らしてやる程に
如何な事でも確と聞き分け

29 子の夜泣き思つ心は違つでな
子が泣くで無い神の口説き哉

(47)

(46)

44 此度は救へ一条に掛かるのも
我身の試し懸かりたる上

43 今迄は何様の事も世界並
此から分る胸の内より

42 今年には珍し事を創め掛け
今迄知らぬ事をするぞ哉

41 人間は皆々神の貸し物哉
何と思つて使っているやら

40 段々と何事にも此世は
神の身体や思案してみよ

39 口先の追従ばかりは要らんもの
真の心に誠有るなり

38 真実に救へ一条の心なら
何言わいでも確と受け取る

37 今の道如何な道でも嘆くなよ
先の本道楽しゆんでいよ

(49)

(48)

45 救^{たす}けでも拝^{おが}み祈^き禱^{とう}で行^いくで無^なし
伺^{うかが}い立^たてて行^いくで無^なけれど

46 此^{この}処^{ところ}万^{よろず}の事^{こと}を説^とき聞^きかす
神^{かみ}一^{いち}条^{じょう}で胸^{むね}の内^{うち}より

47 分^{わか}る様^{よう}胸^{むね}の内^{うち}より思^し案^{あん}せよ
人^{ひと}救^{たす}けたら我^{われ}身^み救^{たす}かる

48 高^{たか}山^{やま}は世^せ界^{かい}一^{いち}列^{れつ}思^{おも}う様^{よう}
儘^{まま}にすれども先^{さき}は見^みえんで

49 段^{だん}々^{だん}と多^{おほ}く寄^よせたる此^{この}立^{たち}木^き
用^{もち}木^ぎに成^{なり}る物^{もの}は無^ないぞ哉^や

50 如^{いか}何^なな木^きも多^{おほ}く寄^よせてはあ^あるけれど
歪^{かたが}み屈^かみは此^{これ}は適^{かな}わん

51 世^せ界^{かい}中^{ちゅう}胸^{ちゅう}の内^{うち}より真^{しん}柱^{ぼしり}
神^{かみ}の急^せぎ込^こみ早^{はや}く見^みせたい

52 世^せ界^{かい}中^{ちゅう}胸^{ちゅう}の内^{うち}より此^{この}掃^{そう}除^{じゆ}
神^{かみ}が箒^{ほう}や確^{けつ}と見^みていよ

(51)

(50)

53 此^{これ}からは神^{かみ}が表^{おもて}あらわ
山^{やま}い掛^かかりて掃^{そう}除^{じゆ}するぞ哉^や

54 一^{いち}列^{れつ}に神^{かみ}が掃^{そう}除^{じゆ}するならば
心^{こころ}勇^{ゆう}んで陽^{やう}気^きつくめ哉^や

55 何^{なに}も彼^かも神^{かみ}が引^ひき受^うけるからは
何^{なん}な事^{こと}でも自^じ由^{ゆう}自^じ在^{ざい}を

56 此^{この}度^{たび}は内^{うち}を治^しめる真^{しん}柱^{ぼしり}
早^{はや}く入^いれたい水^{みづ}を澄^{すみ}まして

57 高^{たか}山^{やま}の真^{しん}の柱^{はしら}は唐^{とう}人^{じん}哉^や
此^{これ}が第^{だい}一^{いち}神^{しん}の立^{りつ}腹^{ぶく}

58 上^{かみ}たるは段^{だん}々^{だん}世^せ界^{かい}儘^{まま}にする
神^{かみ}の残^{ぜん}念^{ねん}何^{なん}と思^{おも}うぞ

59 今^{いま}迄^{まで}は何^{なに}を言^いうても見^みえて無^ない
も^もう此^{この}度^{たび}は節^{せつ}が来^きた

60 此^{これ}からは陽^{やう}気^き勤^{きん}めにまた掛^かかる
何^{なん}の事^{こと}やら一^{いち}寸^{すん}に知^しれまい

(53)

(52)

61 今^{いま}迄^{まで}知^しりて話^{はな}して話^{はな}しも
説^といてあれども何^{なん}の事^{こと}やら

62 此^{これ}迄^{まで}は如^{いか}何^なな話^{はな}を説^といたとて
日^ひが来^きたらんで見^みえて無^ないぞ哉^や

63 此^{これ}からはも^もう節^{せつ}が来^きたるから
言^いえ^えば其^{その}儘^{まま}見^みえて来^きるぞ哉^や

64 確^{しか}と聞^きけ三^{さん}六^{ろく}二^に五^ごの暮^{くれ}合^あいに
胸^{むね}の掃^{そう}除^{じゆ}を神^{かみ}がするぞ哉^や

65 思^し案^{あん}せよ何^{なん}ほ澄^{すみ}んだる水^{みづ}やとて
泥^{どろ}を入^いれたら濁^{にご}る事^{こと}也^{なり}

66 濁^{にご}り水^{みず}早^{はや}く澄^{すみ}まさん事^{こと}にては
真^{まこと}の柱^{はしら}の入^{いれ}様^{よう}が無^ない

67 柱^{はしら}さい早^{はや}く入^いれたる事^{こと}ならば
末^{まへ}代^{しろ}確^{けつ}と治^ちまりが着^つく

68 此^{この}世^せを創^{はじ}めた神^{かみ}の真^{しん}実^{じつ}を
説^といて聞^きか^かする嘘^{うそ}と思^{おも}うな

(55)

(54)

- 76 此からは人衆揃つて勤めする
此で確かに日本治まる
- 75 日々に神の心の急き込みは
自由自在を早く見せた
- 74 此間心も付き来る欲忘れ
人衆揃つて勤め拵え
- 73 十一に九が無くなりて忘れ
正月廿六日を待つ

(57)

- 69 今迄も心学口記有るけれど
元を知りたる者は無いぞ哉
- 70 其筈や泥海中の道すがら
知りたる者は無い筈の事
- 71 此迄は此世創めて無い事を
段々説いて聞かす事也
- 72 何も彼も無い事ばかり説くけれど
此に間違た事は無いぞ哉

(56)

- 84 如何程の剛的有らば出してみよ
神の方にも倍の力を
- 83 此からは神の力と上たるの
力比べをすると思えよ
- 82 此話一寸の事やと思うなよ
神が真実見兼ねたる故
- 81 此からは神の心と上たるの
心と心の引き合わせする

(59)

- 80 今迄は何か方が分らいで
皆人間の心ばかりで
- 79 思案せよ万救けの此模様
人間業と更に思ふな
- 78 何も彼も救け一条止めるなら
神の残念身に障り付く
- 77 真実に救け一条であるからに
何も怖みは更に無いぞ哉

(58)

- 92 此世は賑わし暮らしているけれど
元を知りたる者は無いので
- 91 此力人間業と思われん
神の力や此は敵わん
- 90 日本見よ小さい様に思たれど
根が現れば恐れ入るぞ哉
- 89 今迄は唐は偉いと言つたれど
此から先は折れるばかり哉

(61)

- 88 同じ木の根と枝との事ならば
枝は折れくる根は采い出る
- 87 此先は日本が唐を儘にする
皆一列は承知していよ
- 86 今迄は唐が日本を儘にした
神の残念何としよやら
- 85 真実の神が表い出るからは
如何な模様もすると思えよ

(60)

93 此元を詳しく知りた事ならば
病の起る事は無いのに

94 何も彼も知らずに暮らす此子供
神の目にはいじらしき事

95 何にても病と言つて更に無し
心違いの道が有るから

96 此道は惜しい欲しいと可愛いと
欲と高慢此が埃哉

97 此世の人間は皆神の子哉
神の言う事確と聞き分け

98 埃さいすきやか払た事ならば
後は珍し救済するぞ哉

99 真実の心次第の此救け
病まず死なずに弱り無き様

100 此救け百十五歳定命と
定め付けたい神の一条

(63)

(62)

101 日々に神の心の急ぎ込みを
側なる者は何と思てる

102 上たるを怖いと思ていずみいる
神の急ぎ込み怖み無いぞ哉

103 胸悪しく此を病と思つなよ
神の急ぎ込みつかえたる故

104 段々と神の心と言つものは
不思議現し救け急ぎ込む

105 此不思議何の事やと思ている
埃払つて掃除仕立てる

106 後なるに早く柱を入れたなら
此で此世の定め付く也

107 此話早く見えたる事ならば
如何なる者でも皆得心せ

108 今迄は証拠試しと言えあれど
甘露台も何の事やら

(65)

(64)

109 此者を四年以前に迎取り
神が抱き締め此が証拠哉

110 真実に早く返する模様立て
神の急ぎ込み此が第一

111 此迄は自由自在と儘説けど
何も見えたる事は無けれど

112 此からは如何な話も説き置いて
其見えたなら自由自在哉

113 今迄の事は何にも言てくれな
廿六日に創め掛けるで

114 此からは世界の心勇め掛け
日本治める模様するぞ哉

115 人間の心と言つは浅のうて
見えたる事をばかり言う也

116 此からは無い事ばかり説いて置く
此から先を確か見ていよ

(67)

(66)

124 上たるは世界中を我が儘に
おも 思っているのは心違つて

123 此世を創めてからは何も彼も
このよう 説いて聞かした事は無いので

122 此迄は万世界は上の儘
これまで もう此からは文句変るぞ

121 上たるは世界中を儘にする
かみ 神の残念此を知らんか

120 今の道上の儘やと思つて
いま 心違つて神の儘也

119 目に見神の言う事為す事を
めえ 段々聞いて思案してみよ

118 此世を創めた神の真柱
このよう 早く付けたい神の一条

117 何の様な事も段々言い掛ける
ど 見えたる事は更に言わんで

(69)

(68)

132 同じ木も段々手入りするも有り
おな 其儘倒す木も有る也

131 日々に用木にては手入りする
いちにち 何処が悪しきと更に思ふな

130 用木も一寸の事では無い程に
ようぼく 多く用木が欲しい事から

129 段々と多く立木も有るけれど
だんだん 何れが用木成るや知れまい

128 一寸話神の心の急き込みは
いちふと 用木寄せる模様ばかりを

127 一列は皆々我身気を付けよ
いちれつ 神が何時何処へ行くやら

126 人間は皆々神の貸し物哉
にげん 神の自由此を知らんか

125 高山に育つる木も谷底に
たかやま 育つる木も皆同じ事

(71)

(70)

140 今迄は高い山やと言つたとて
いままで 用木見えた事は無けれど

139 一寸したる目の悪しくも出来物哉
ちちと 逆上せ痛みは神の手引き哉

138 思案せよ病と言つて更に無し
しやん 神の道教せ意見なるぞ哉

137 銘々の身の内よりの借り物を
めええ 知らずにいては何も分らん

136 此度は神が表い出てるから
このたび 万の事を皆教えるで

135 段々と何事にても此世は
だんだん 神の身体や思案してみよ

134 今迄も試しと言つて説いたれど
いままで もう此度は試し納め哉

133 如何なるの自由自在の此試し
いか 他なる処で更にせんぞ哉

(73)

(72)

141 此先は高山にても段々と
用木見出す模様するぞ哉

142 一列に早く救ける此模様
上下共に心勇めて

143 日々に世界の心勇むなら
物の立毛は皆勇み出る

144 何にても救け一条であるからに
謀反の根を早く切りたい

145 今の道埃だらけであるからに
箒を持ちて掃除を仕立て

146 後なるは道は広くて芥無し
幾人なりと連れて通れよ

147 二二の二の五に話し掛け
万因縁皆説き聞かす

148 高山の説教聞いて真実の
神の話を聞いて思案せ

(75)

(74)

149 日々に神の話を段々と
聞いて楽しめ口記なるぞ哉

(76)

第四号

七十七歳老女

一八七四年(明治七年) 四月

1 今^{いま}の道^{みちなん}何^{なん}の道^{みち}やと思^{おも}てい
何^{なん}か分^{わか}らん道^{みち}であれど

2 此^{この}先^{さき}は往^{おう}還^{かん}道^{みち}が見^みえてあ
るも
う彼^あ処^こに有^ある此^{この}処^こい來^きた也^{なり}

3 此^{この}日^ひ柄^{がら}何^{いつ}時^じの事^{こと}やと思^{おも}てい
る
五^ご月^{げつ}五^{いつ}日^{にち}に確^{たし}か出^でて來^くる

第四号
4 其^{その}よ^りもお蔭^{かげ}始^{はじ}まる此^{これ}を見^みよ
夜^{よる}昼^{ひる}知^しれん様^{よう}に成^なるぞ哉^や

(79)

5 段^だ々^{だん}と六^{ろく}月^{がつ}にな^なる事^{こと}ならば
証^{しやう}拠^こ守^{しゅ}りをすると思^{おも}えよ

6 其^{その}か^らは段^だ々^{だん}普^ふ請^{しん}急^せき込^こんで
何^{なん}か忙^{いそ}し事^{こと}にな^なる也^{なり}

7 此^{これ}か^らは神^{かみ}の心^{こころ}は日^{にち}々^{じつ}に
急^せき込^こみ有^あると思^{おも}いこそ知^しれ

8 如^い何^か程^{ほど}の多^{おほ}く急^せき込^こみ有^あるとも
口^{くち}では何^{なん}も言^いうで無^ないぞ哉^や

9 此^{この}先^{さき}は多^{おほ}く見^みえ來^くる人^{ひと}々^{びと}を
早^{はや}く知^しらして置^おくと思^{おも}えど

10 段^だ々^{だん}と珍^{めづ}し人^{ひと}が見^みえてあ
る誰^{たれ}が目^めにも此^{この}か見^みえんか

11 此^{これ}か^らの後^{あと}なる話^{はなし}山^{やま}々^{やま}の
道^{みち}を見^みていよ珍^{めづ}しき道^{みち}

12 面^{おも}白^{しろ}や多^{おほ}くの人^{ひと}が集^{あつ}まりて
天^{てん}の与^よえと言^いうて來^くるぞ哉^や

(81)

13 日^{にち}々^{じつ}に身^みに障^{さわ}り付^つくまた來^きたか
神^{かみ}の待^{まち}ち兼^かね此^{これ}を知^しらずに

14 段^だ々^{だん}と勤^{つと}めの人^{にん}衆^{じゆう}手^てが揃^{そろ}い
此^{これ}を合^あ図^ずに何^{なん}も出^で掛^かける

15 日^{にち}々^{じつ}の神^{かみ}の心^{こころ}は段^だ々^{だん}と
上^{かみ}の心^{こころ}に早^{はや}く見^みせたら

16 上^{かみ}たるは何^{なん}も知^しらずに唐^{とう}人^{じん}を
従^{したが}う心^{こころ}此^{この}か可^か笑^{あか}しい

17 日^{にち}々^{じつ}に神^{かみ}の心^{こころ}の急^せき込^こみは
唐^{たう}人^{じん}こ^ろろ此^{この}を待^{まち}つ也^{なり}

18 今^{いま}迄^{まで}の牛^{うし}の先^{さき}道^{みち}思^{おも}てみよ
上^{かみ}たる処^{ところ}皆^{みな}氣^きを付^{つけ}よ

19 此^{これ}さ^いいか皆^{みな}見^みえ來^きたる事^{こと}ならば
世^せ界^{かい}の心^{こころ}皆^{みな}勇^{ゆう}み來^きる

20 何^{なん}にても世^せ界^{かい}の心^{こころ}勇^{ゆう}むなら
神^{かみ}の心^{こころ}も皆^{みな}勇^{ゆう}む也^{なり}

(83)

(82)

21 今日けふの日は如何いかなる道みちと思おもつかな
珍めづし事ことが見みえて来くるぞ哉や

22 段々だんだんに何なにか的事ことも見みえて来くる
如何いかなる道みちも皆みな樂たのしめよ

23 日々にちにちに陽氣ようき勤つとめの手てが付つけ
神かみの樂たのしみ如何いか程ほどの事こと

24 早々はやはやと勤つとめの人ひと衆しゅう待ち兼かねる
側わきな心こころは何なにを思おもう哉や

25 如何いかなる病やまいと言いつて無ないけれど
身みに障さわり付つく神かみの用もち向むき

26 用もち向むきも何なにの事ことやら一寸ちと知しれん
神かみの思おも惑わく山々さんさんの事こと

27 何なにも彼かも神かみの思おも惑わく何なににても
皆みな説いいたなら心こころ勇いさむで

28 段々だんだんに何なにも思おも惑わく説いき切きれ
身みの内うちよりも涼すずやかに成なる

(85)

(84)

29 また先さきの陽氣ようき勤つとめを待まちか兼かねる
何なんの事ことなら神樂かみくら勤つとめ哉や

30 世界せかい中ちゆう多おほくの人ひとであるけれど
神かみの心こころを知しりた者もの無なし

31 此度このたびは神かみの心こころの真実しんじつを
何なんか委細いさいを皆みな教おしえるで

32 何なににても神かみ一いち条じょうを知しりたなら
唐からに負まけそな事ことは無ないぞ哉や

33 此先このさきは唐からと日本にほんを速すみやかに
段々だんだん分わける模樣もようばかりを

34 此これさいか早はやく分わかりた事ことならば
神かみの殘念ぜんねん晴はれる事こと也なり

35 真実しんじつの神かみの殘念ぜんねん晴はれたなら
世界せかいの心こころ皆みな勇いさみ出いる

36 段々だんだんと世界せかい中ちゆうを真実しんじつに
救たすける模樣もようばかりするぞ哉や

(87)

(86)

37 其後そのあとは病やまず死しなずに弱よわらずに
心次第こころしだいに何時いつ迄までもいよ

38 また先さきは年限ねんげん経たた事ことならば
年としを寄よるめは更さらに無ないぞ哉や

39 今迄いままでは何なにの事ことでも知しれなんだ
此こから先さきは皆みな教おしえるで

40 今いまではな皆みなの心こころと内うちなるの
心こころが大おほい違ちがいなれども

41 明日あす日にちは何なんでも頼たのみ掛かけるでな
神かみの言ことい条じょうに付つかねばならん

42 日々にちにちに身みに障さわり付つく得とく心しんせ
心こころ違ちがいを神かみが知しるする

43 銘々めいめいの身みの内うちよりも思おも案あんして
心こころ定さだめて神かみに凭たれよ

44 何なんにても神かみの思おも惑わく深ふかく有ある
側そばなる者ものは其それを知しらずに

(89)

(88)

52 真実の心見定め付いたなら
如何な守護もすると思えよ

51 肥やとて何が効くとは思ふなよ
心の誠真実が効く

50 此話何の事やと思ふなよ
肥一条の話なるぞ哉

49 真実に心勇んで思案して
神に凭れて陽気勤めを

48 何にても神の言う事確と聞け
皆銘々の心次第哉

47 段々と筆に知らしてあるけれど
悟り無いのが神の残念

46 此道を早く知らそと思えども
悟りが無うて此が難し

45 今日迄は何様の道も見えねども
早く見えるで思案定めよ

(91)

(90)

60 今日の日は何か珍し創め出し
万因縁皆付いて来る

59 此道を早く分けたる事ならば
後の方は神の儘也

58 日々に唐と日本を分ける道
神の急ぎ込み此が一条

57 段々と万救けを皆教え
唐と日本を分けるばかり哉

56 此先は世界中を一系列に
救け守護を皆教えるで

55 人間を創め出したる屋敷也
其因縁で天降りたで

54 何の様な処の人が出て来て
皆因縁の者であるから

53 確と聞け万の事を皆教え
何処に隔ては更に無いぞ哉

(93)

(92)

68 日々に神の急ぎ込み此悩み
早く救ける模様してくれ

67 真実に子供の子供の心確とせよ
神の心は急ぐばかりやで

66 子供さい早く表出したなら
唐を日本の地にする也

65 段々と子供の出世待ち兼ねる
神の思惑此ばかり也

64 此子供何も教えて早々と
神の心の急ぎ込みを見よ

63 一列の子供が可愛其故に
色々心尽し切る也

62 此世を初た神の事ならば
世界一列皆我が子也

61 因縁も多くの人であるからに
何処に隔ては有ると思ふな

(95)

(94)

69 内なるは上を思つていずみいる
怖み無いぞや神の請け合い

70 今迄と道が變りてある程に
早く急ぎ込み往還の道

71 此道は何時の事やと思つて
早く出てみよもう今の事

72 段々と筆に知らしてある程に
早く心に悟り取る様

73 此さいか早く悟りが付いたなら
身の内悩み涼やかに成る

74 勤めでも初め手踊りまた神楽
一寸の細道付けてあれども

75 段々と草がしこりて道知れず
早く本道付ける模様を

76 日々心に勇んで急ぎ込めよ
早く本道付けた事なら

(97)

(96)

77 真実に此本道が付いたなら
末は頼もし陽氣づくめ哉

78 村方は尚も救けを急えている
早く思案をしてくれる様

79 世界中神のためには皆我が子
一列は皆親と思えよ

80 世界中説教として始め掛け
説いて聞かする聞きに行く也

81 如何程に見えたる事を言つたとて
元を知らねば分る芽は無し

82 段々と無い事はかり言て置いて
其出たならば此が真哉

83 一列に神に凭れる此子供
早く表い出る模様せよ

84 真実に表出ようと思つたら
心静めて心を尋ねよ

(99)

(98)

85 此子供真実よりも胸の内
見定め付けば如何な模様も

86 日々に神の心は急ぎ込めど
子供の心分り無いので

87 子供でも一寸の人では無いからに
多くの胸が更に分らん

88 今迄は学問等と言つたとて
見えて無い事更に知るまい

89 此先は見えて無い事段々と
万の事を皆説いて置く

90 此からは此世創めて無い勤め
段々教え手を付ける也

91 此勤め世界中の救け道
唾でも物を言わす事也

92 日々に勤めの人衆確とせよ
心静めて早く手を付け

100 日々にちにに神かみの思惑おもわく段々だんだんと
説といて置おくぞや此こ聞きいてくれ

99 如何いか程ほどに難むずかし事ことと言ゆつたとて
説とかずいては分わかる芽めは無なし

98 此この先さきは神かみの心こころの急せき込こみを
口くちではどうむ言ゆつに言ゆわれん

97 此これ迄までと道みちが変かわると言ゆつてある
神かみは違ちがつた事ことは言ゆわんで

96 今いまの道みち神かみの急せき込こみ内うちなるは
案あんじ無ないぞや確しかと見みていよ

95 真しん実じつの心こころ次第しだいに何いずか
如何いかな守し護ごもせんと言ゆわんで

94 此この道みちが確たしか見みえたる事ことならば
病やまいの根ねは切きれてしましまうで

93 此この勤とめ何なにの事ことやと思おもっている
世せ界かい治おさめて救たすけばかりを

(103)

(102)

108 此これを見みよ世せ界かいも内うちも隔へだて無ない
胸むねの内うちより掃そう除じょするぞ哉

107 此これからは世せ界かい中ちゆうの胸むねの内うち
上かみ下しも共ともに分わかけて見みせるで

106 如何いか程ほどに見みえたる事ことと言ゆつたとて
先さきで見みえねば分わかりあるまい

105 段々だんだんと見みえん事ことをば言ゆて置おいて
先さきで見みえたら此これが神かみやで

104 此この世ようを治おさめるも上かみ天てんも神かみ
上かみと神かみとの心こころ分わかけるで

103 唐からの地ちを日に本ほんの地じにしたならば
此こ末ま代だいの生いき通とり也

102 此この道みちを通とおり抜ぬけたら其その先さきは
唐からは日に本ほんの地ちにしてある

101 此この道みちは何なにか難むずかし珍めずらしい
道みちであるぞや確たしか見みていよ

(105)

(104)

116 此この世ようを初はじめ神かみの自じ由ゆうを
見みせたる事ことは更さらに無ないので

115 此この道みちを上かみへ通とおりた事ことならば
神かみの自じ由ゆう直ちゆうに現あらわす

114 其その中ちゆうに真しん実じつ心こころ頼たのもしい
思おもて思し案あんをする者ものも有ある

113 其その中ちゆうには思し案あんするも有ある
皆みな寄より合あつて話はなしたなら

112 此この度たびは何なにか万よろずを上かみたるへ
知しらして置おいた事ことであるなら

111 此この世ようを初はじめ何なにも彼かも
上かみへ教おしえた事ことは有あるまい

110 何どの様ような痛いたみ悩なやみも出で来き物もの哉
熱あつも下くだりも皆みな埃ほりやで

109 此この掃そう除じょ難むずかし事ことであるけれど
病やまいと言いうは無ないと云いて置おく

(107)

(106)

117 何にても知らん間は其儘哉
 神の自由知らしたるなり

118 此聞いて皆一列は思案せよ
 何か方は心次第哉

119 今日の日は何が見えるや無いけれど
 六月を見よ皆出掛けるで

120 今迄は高い山やと言つて
 谷底にてはしけんばかりを

121 此からは高山にても谷底も
 元初まりを言つて聞かする

122 此世の創まり出しは泥の海
 其中よりも泥鱸ばかり哉

123 此泥鱸何の事やと思つて
 此人間の種であるぞ哉

124 此ものを神が引き上げ食てしもて
 段々守護人間と成し

(109)

(108)

125 其よりも神の守護と言つものは
 並大抵な事で無いぞ哉

126 此話一寸の事やと思つなよ
 世界一列救けたいから

127 日々に神の心の眞実は
 深い思惑有ると思えよ

128 今迄は日本が唐に従つて
 儘にしられた神の残念

129 此返し神の働き此を見よ
 如何な者でも眞似は出来まい

130 如何程の剛的たると言つたとて
 神が退く此敵いまい

131 何にても皆一列は此道理
 神が自由すると思えよ

132 思案せよ若い年寄弱きでも
 心次第に如何な自由

(111)

(110)

133 今迄も同じ暮らしていたるとも
 神の自由知りた者無し

134 此からは万の事を皆説くで
 心違いの無い様にせよ

(112)

第五号

七十七歳老女

一八七四年(明治七年) 五月

1 今迄は牛馬と言つは間々あれど
後先知れた事は有るまい

2 此度は先なる事を此世から
知らして置くで身に障り見よ

3 此世は如何程我身思つても
神の立腹此は敵わん

第五号
4 銘々に我身思案は要らんもの
神が其々見分けするぞ哉

(115)

5 一屋敷同じ暮らしている内に
神も仏も有ると思えよ

6 此を見て如何な者でも得心せ
善と悪とを分けて見せるで

7 此話皆一列は思案せよ
同じ心は更に有るまい

8 親子でも夫婦の仲も兄弟も
皆銘々に心違つで

9 世界中何処の者とは言わんでな
心の埃身に障り付く

10 身の内の悩む事をば思案して
神に凭れる心思案せ

11 何の様な難し事と言つたとて
神の自由早く見せたい

12 今迄は神の自由真実を
知りたる者は更に無いので

(117)

13 此からは如何な難し病でも
心次第に治らんで無し

14 真実の心を神が受け取れば
如何な自由して見せるでな

5 此程の神の真実此話
側なる者は早く悟れよ

16 此さいか早く悟りが付いたなら
何に就いても皆此道理

17 今日迄は何様の事も急かねども
もう急ぎ込むで往還の道

18 此道は世界並とは思つなよ
此末代の口記初まり

19 此人衆何処に有るとは言わんでな
身の内障り皆来るであろ

20 此障り手引き意見も立腹も
皆銘々に思案してみよ

(119)

(118)

21 此話何と思つて聞いている
可愛余りて口説く事也

22 何の様に意見立腹言つたとて
此救けんと更に言わんで

23 人間の我が子の意見思て見よ
腹の立つのも可愛故から

24 思案して心定めて随いて来い
末は頼もし道が有るぞ哉

25 今迄は心違ひは有りたとて
日が来たらんで見許していた

26 此度は何でも彼でも胸の内
掃除をするで皆承知せよ

27 胸の内掃除をすると言つのもな
神の思惑深く有るから

28 此掃除すきやか仕立てせん事に
胸の真実分り無いから

(121)

(120)

29 此心芯から分り付いたなら
此世創まり手を付ける也

30 近道も欲も高慢無い様に
只一筋の本道に出よ

31 此道に付いたるならば何時迄も
此日本の口記なるの哉

32 日本にも口記が出来た事ならば
何でも唐を儘にする也

33 此世を創めてからの真実を
未だ今迄は言つた事無し

34 此話難し事であるけれど
言わずにいれば誰も知らんで

35 段々と何の様な事も言て聞かす
心静めて確と聞く也

36 今迄は如何なる法と言つたとて
もう此からは法は効かんで

(123)

(122)

37 此迄は枝先にては法等と
教えて有れど先を見ていよ

38 日本には今迄何も知らいでも
此から先の道を楽しめ

39 法やとて誰がするとは思ふなよ
此世初た神の為す事

40 何の様な難し事と言つたとて
神が真実受け取りたなら

41 今迄は唐や日本と言つたれど
此から先は日本ばかり哉

42 枝先は大きに見えてあかんもの
構えば折れる先を見ていよ

43 元なるは小さい様で根が偉い
何の様な事も元を知る也

44 術やとて法が偉いと思ふなよ
心の誠此が真実

(125)

(124)

45 人間は浅ないものであるからに
珍し事を法等と言つ

46 今迄は神が現れ出たるとて
未だ真実を知りた者無し

47 此先は何の様な事も真実を
教えて置いた事であるなら

48 其からは神の働き何も彼も
自由自在をして見せるでな

49 真実の神の働き仕掛けたら
世界一列心澄み切る

50 働きも如何なる事と思ふかな
心受け取り次第返しを

51 此返し何の事やと思ふかな
道程千里隔て有りても

52 此事は何を言つても思つても
受け取り次第直に返しを

(127)

(126)

53 此返し何の事やと思ふなよ
善悪共に皆返すでな

54 善き事を言つても悪しき思つても
其儘直に返す事也

55 此事を見え来たならは一列は
何んな者でも皆澄み渡る

56 今日の日は何が見えるや無いけれ
八月を見よ皆見えるでな

57 見えるのも何の事やら知れまいな
高い山から往還の道

58 此道を付け様とてに仕替へ
側なる者は何も知らずに

59 此処へ呼びに来るのも出て来るも
神の思惑有るからの事

60 其事を何も知らずに側なるは
世界並なる事を思つて

(129)

(128)

61 何にても世界並とは思ふなよ
何か珍し道が有るぞ哉

62 段々と此世創めて日は経てど
誰か真実知りた者無し

63 如何程に神の心は急えたとて
皆の心は未だうっかりと

64 早々と思案してみて急き込めよ
根掘る模様何でして出ん

65 此世の真実根の掘り方を
知りたる者は更に無いので

66 此根を真実掘りた事ならば
真頼もし道に成るのに

67 此道を掘り切り通り抜けたなら
上下共に心勇むに

68 此からは何でも世界一列を
勇める模様ばかりするぞ哉

(131)

(130)

69 段々と何事にても日本には
知らん事をは無いと言う様に

70 何も彼も世界中へ教えたい
神の思惑深く有るのに

71 其知らず世界中は一列に
何ど危なき様に思つて

72 何の様な事でも神の言う事哉
何の危なき事が有るぞ哉

73 何も彼も万の事を段々と
言つていながら分りたる無し

74 此からはどうぞ眞実胸の内
早く澄まする模様してくれ

75 世界中多くの人であるからに
此澄まするが難しい事

76 如何程に難し事と言つたとて
我が心より眞実を見よ

(133)

77 此心澄むし分りた事ならば
其儘見える事である也

78 日々に神の眞実働きを
知りたる者は更に有るまい

79 何にても神の自由と言つものは
珍し事をして見せるでな

80 何の様な珍し事と言つたとて
神のする事為す事はかり

81 今迄は何様の事も知れなんだ
一寸見え掛けた細い道筋

82 此道を段々慕い行くならば
何でも向こに見える本道

83 此迄に通りに来たる道筋は
唐も日本も分り無いので

84 此先は何ほ唐やと言つたとて
日本が負ける例し無いぞ哉

(132)

85 此世の元初まりの根を掘らそ
力有るなら掘り切りてみよ

86 此根を掘り切りさいかしたるなら
何の様な者も敵う者無し

87 確と聞け口で言つても思つても
何処で言つても思つたるとて

88 其儘に返しと言つは此事故
神が退く皆承知せよ

(135)

(134)

(136)

第六号

七十七歳老女

一八七四年（明治七年）十二月より

1 此度は珍し事を言い掛ける
心静めて此聞いてくれ

2 何事も神のする事言つ事哉
側に心配掛ける事無し

3 此話どうど真実一列は
心静めて承知してくれ

第六号
4 此道は如何言う事に思つか
此世治める真実の道

(139)

5 上たるの火と水とを分けたなら
ひとり治まる陽氣つくめに

6 此火水分けると言つは此処
陽氣勤めをすると思えよ

7 此世を創め掛けしたも同じ事
珍し事をして見せるでな

8 此世を創めてからに無い勤め
また始め掛け確か治める

9 此世の月日の心真実を
知りたる者は更に有るまい

10 此迄は如何なる神と言つたとて
目に見えんと言つていた也

11 此度は何の様な神も真実に
現れ出して話す也

12 今からは何を言つても思つても
其儘見える此が不思議哉

(141)

13 何も彼も秋を合図に見え掛ける
陽氣勤めに早く掛かれよ

14 世界中多く暮らす其内は
一列は皆露の如く哉

15 日々に澄むし分りし胸の内
成人次第見えて来るぞ哉

16 此道が確か見えたる事ならば
此先確か楽しゆんでいよ

17 段々と心勇んで急ぎ込めよ
早く本道急ぎ出るぞ哉

18 真実の勤めの人衆十人の
心を神が受け取りたなら

19 其からは何の様な事も段々と
神の思惑皆説き聞かす

20 日々に神の心は急えたて
人衆十人揃い無けねば

(143)

(142)

21 十人の中に三人片腕は
火水風とも退くと知れ

22 何の様な事でも神のする事哉
此を病と更に思ふな

23 何も彼も真実神の自由を
知らしたからして見せるでな

24 此迄は如何なる道を通りても
日が来たらんでいずみいた也

25 此先は何の様な事も段々と
本真実を言つて聞かする

26 今迄は如何なる神も山々に
拝み祈禱と言つたなれども

27 此元を知りたる者が有るならば
訪ね行て見よ神が許する

28 又先は何の様な事も段々と
本道付けた事であるなら

(145)

(144)

29 今迄に無い事ばかり言い掛けて
万救けの勤め教える

30 此勤め十人衆其中に
元初まりの親がいる也

31 いざなぎといざなみいとを引き寄せて
人間創め守護教えた

32 此元は泥海中に魚と曰と
其引き出して夫婦創めた

33 此世の元初まりは泥の海
其中よりも泥鰌ばかり哉

34 其内に魚と曰とが混りいる
良く見澄ませば人間の顔

35 其を見て思い付いたは真実の
月日の心ばかりなるぞ哉

36 此者に道具を寄せて段々と
守護教えた事であるなら

(147)

(146)

37 此道眞くにさづちいと月よみと
此身の内へ仕込みたるなら

38 くもよみとかしこねえとをふとのべ
たいしよく天と寄せた事なら

39 其からは確か世界を初よと
神の相談締めり付いたり

40 此からは神の守護と言つものは
並大抵な事で無いぞ哉

41 今迄に無い事ばかり創めるは
何を言つのも難しき事

42 此世を創め掛けたる真実を
誰か知りたる者は有るまい

43 此からは何の様な事も段々と
言つて聞かする嘘と思ふな

44 人間を創め掛けたは魚と曰と
此苗代と種に創めて

(149)

(148)

52 いざなぎといざなみいとが一の神
此天照皇の大神宮也

51 人間を創め様とて段々と
寄せて使つた此に神名を

50 此世の眞実の神月日也
後なるは皆道具なるぞ哉

49 此者に一度教えた此守護
同じ胎内三度宿りた

48 其よりも生れ出したは五分から
五分五分として成人をした

47 此人を三日三夜に宿し込み
三年三月留まりていた

46 此子数九億九万に九千人
九百九十に九人なるぞ哉

45 此者に月日体内入り込んで
段々守護教え込んだで

(151)

59 今迄も月日の社確りと
貰てあれどもいずみいた也

58 其よりも自由自在に何時なりと
思つ儘なる話しよもの

57 眞実に月日の心思うには
銘々の社貰た事なら

56 月日より其を見澄まし天降り
何か万を知らしたいから

55 此世を創め出したる屋敷也
人間創め元の親也

十二月廿一日より話し

54 此先は何を言つても人間を
創め掛けたる事ばかりやで

53 又先は何か段々説くけれど
今迄知らん事ばかりやで

(153)

67 何事も此処には人間の
心は更に有ると思つな

66 其知らず高山にては何も彼も
何と思つて儘にするぞ哉

65 此度はもう十分に日も来たり
何か万を儘にする也

64 今迄も月日の儘であるなれど
日が来たらんで見許していた

63 此赤い着物を何と思つて
中に月日が籠りいるぞ哉

62 此度は明い処い出たるから
何の様な事も直に見えるで

61 今迄は御簾の内らにいたるから
何様の事も見えて無けれど

60 此度は確か表い現れて
何か万を皆言て聞かす

(155)

(150)

(152)

(154)

68 何の様な事を言つにも筆先も
月日の心指図ばかりで

69 高山は何を言つても思うにも
皆人間の心ばかりで

70 月日より付けた名前を取り払い
此残念を何と思うぞ

71 真実の月日立腹残念は
容易なる事で無いと思ふよ

72 今迄は高い山やと蔓延りて
何か万を儘にしたれど

73 此からは月日代りて儘にする
何かの事を真似をして見よ

74 此処何を言つにも為す事も
月日の思う事ばかりやで

75 此からは月日の心残念を
晴らす模様ばかりするぞ哉

(157)

(156)

76 此先は何の様な埃立つとても
此を病と更に思うな

77 今迄も月日残念山々に
積りて有るを返しするぞ哉

78 今迄も返しと言つて説いたれど
何の事やと思つていた也

79 真実に返しと言つは此事故
高山は皆承知していよ

80 此世は泥海中の事なるし
中に月日がいたる迄也

81 月日より真実思い付いたるは
何と世界を創め掛けたら

82 無い世界創め掛けるは難しい
何と道具を見出す模様を

83 見澄ませば中に泥鰯も魚日も
他なる者も見えてある也

(159)

(158)

84 其者を皆引き寄せて談じ合い
人間守護始め掛けたら

85 無い世界創め様とて此月日
段々心尽したる故

86 此道を知りたる者は更に無し
月日残念何と思うぞ

87 此程に思つて創めた此世界
月日の心何と残念

88 月日より段々心尽し切り
其上なるの人間である

89 其知らず今の処は高山は
皆蔓延りて儘にしている

90 此月日第一此が残念な
何んな返しをするや知れんで

91 此世界山崩え等も雷も
地震大風月日立腹

(161)

(160)

99 今迄は何を言つても思つても
皆人間の心ばかりで

98 月日より真実心見定めて
受け取り次第返する也

97 一列は皆銘々の胸次第
月日見分けていゝと思えよ

96 此話段々口説き詰めてある
此確りと聞き分けてくれ

95 何の様な事も恨みに思つなよ
皆銘々の身恨みである

94 何も彼も精一杯に断りて
其から掛かる月日仕事を

93 一列は皆々我身氣を付けよ
月日遠慮は更に無いぞ哉

92 何の様な大社高山油断しな
何時月日飛んで出るやら

(163)

107 此救け今迄知らぬ事なれど
此から先は試してみよ

106 此からは痛み悩みも出来物も
息手踊りで皆救けるで

105 今迄は病と言えは医者薬
皆心配をしたるなれども

104 何の様な事でも月日真実に
思て創めた事ばかりやで

103 此先は何を言つても嘘は無い
皆真実と思て聞き分け

102 此世の真実の親月日也
何か万の守護するぞ哉

101 今迄は何か悟りも有りたけど
もう此からは悟り無いぞ哉

100 此からは善き事しても悪しきでも
其儘直に返しする也

(165)

115 此返し大社高山取り払い
皆一列は承知していよ

114 此処救け一条止められて
何でも返しせずいられん

113 此度は何か月日の残念を
積み有るから皆言つて置く

112 今迄も大抵口説きも説いたれど
未だ言い足らん月日思惑

111 確と聞け如何な自由するとても
月日の心ばかりなるぞ哉

110 生れ子痼瘡麻疹もせん様に
病まず死なずに暮らす事なら

109 月日より真実心見定めて
如何な守護もすると思えよ

108 何の様な難しきなる病でも
真実なるの息で救ける

(167)

(162)

(164)

(166)

116 此話何と思つて聞いている
このはなしなん おも

117 此程の月日の心心配を
此程の月日 つきひのしんしんぱい
世界中は何と思つてゐる
せかいじゅうなん おも

118 段々と口説き嘆きは説くけれど
だんだん くどく げなげは せつくけれど
真実なるの心救ける
まことなるのしんきうける

119 何の様な者も一列我が子也
どのよう なもの いちれつ わがこなり
月日の心心配をみよう
つきひのしんしんぱいをみよう

120 此世は一列は皆月日也
このよう いちれつ みなつきひなり
人間は皆月日貸し物
にんげんみなつきひのかもの

121 世界中此真実を知りたなら
せかいじゅうこのまことを知りたいなら
強気強欲出す者は無い
きやうききやうよくだすものはない

122 心さい真実よりも分りたら
しんさい まことよりも わかりたら
何も怖みも危なきも無い
なんにもおそしみもあやなきもない

123 月日より教える事は皆消して
つきひより 教えること はみなけ
後は人間心ばかりで
あとはにんげんしんばかりで

(169)

(168)

124 今迄も此世創めた真実を
いままで このよはじ
教えて置くこと思たなれども
おし おも

125 月日より日々心急き込めど
つきひより 日々 しんききこめど
刻限待ちていゝと思えよ
ときげんまちていゝとおもえよ

126 此話何と思つて聞いている
このはなしなん おも
月日思惑深い利益を
つきひおもわくふかいりやくを

127 此ばかり人並やとは思ふなよ
こればかり ひとなみ やとは思ふなよ
月日の仕事偉い思惑
つきひのしごと偉いおもわく

128 月日より自由自在と間々説けど
つきひより じゆうじゆう自在と 間々 せつけど
未だ今迄は見えた事無し
まだいままでみえたことなし

129 此度は自由自在を真実に
このたびは じゆうじゆう自在を まことに
して見せたなら此が真哉
してみせたならこれがまことや

130 何の様な事をするのも皆月日
どのよう なこと をするの もみなつきひ
真実よりの救け一条
まことよりのきうけいちじょう

131 胎内へ宿し込むのも月日也
たいたいへ やどし 込むの もつきひなり
生れ出すのも月日世話取り
うまれだすの もつきひせわどり

(171)

(170)

132 此度は何の様な事も真実に
このたびは どのよう なことも まことに
皆現れてして見せるでな
みなあらわ してみせるでな

133 此を見て如何な者でも得心せ
これを見て いか なもの でも とくしんせ
心次第に如何な自由
しんじだい にかい なじゆう

134 何の様な事をするのも真実の
どのよう なこと をするの もまことの
心次第に皆して見せる
しんじだい にながしてみせる

(172)

第七号

七十八年老母

一八七五年（明治八年）二月

1 月日より三十八年以前にて
天降りたる元の因縁

2 月日より其因縁が有る故に
何か委細を話したいから

3 上たるは其を知らずに何事も
世界並やと思つてゐる也

第七号

4 此処元なるちばの事ならば
創まり出しを知らん事無し

(175)

5 上たるへ此眞実を早々と
知らしてやると月日思えど

6 上たるは其を知らずに銘々の
我身思案をばかり思つて

7 月日には段々見える道筋に
怖き危なき道が有るので

8 月日より其道早く知らそうと
思て心配してゐるところ

9 人間の我が子思つても同じ事
怖き危なき道を案じる

10 其知らず皆一列は銘々に
皆つつかりと暮らしている也

11 此世界何か方を一列に
月日支配をすると思えよ

12 此話如何言つ事に思つかな
此から先の道を見ていよ

(177)

13 何の様な高い山でも水が付く
谷底やとて危な気は無い

14 何も彼も月日支配をするからは
大き小さい言つて無いぞ哉

15 此迄も何でも用木欲しいから
大抵尋ねいたるなれども

16 此度は谷底にては一寸したる
木がたつぷり見えて在る也

17 此木も段々月日出入りして
作り上げたたら国の柱哉

18 其からは日々月日見定めて
後の用木の模様ばかりを

19 其よりも陳ねた木から段々と
手入り引き付け後の模様を

20 日々に月日思惑深く有る
同じ処に二本三本

(179)

(178)

21 此木も雌松雄松は言わんでな
如何なる木も月日思惑

22 此後い何の話をするならば
用木の模様ばかり言つても

23 用木でも一寸の事では無いからに
五六十の人数が欲し

24 此人も何時何時迄も減らん様
未代続き切れ目無き様

25 此程に思つ月日の真実を
皆の心は何を思ふ哉

26 何の様な口説き話をするのな
救きたいとの一条ばかりで

27 一列の胸の内より真実に
早く分りた事であるなら

28 其からは月日万の支配する
何か万の救けするぞ哉

(181)

(180)

29 此救け早く利益を見せたさに
月日の心急くばかりやで

30 何も彼も此急き込みが有る故に
胸の内より掃除急ぐで

31 此話何処の事やと思つなよ
皆銘々の内の話哉

32 銘々に胸の内より確りと
真実を出せ直に見えるで

33 月日より此急き込みが有る故に
何か心は忙しい事

34 此さいか早く自由見せたなら
月日の心ひとり勇むに

35 今迄も今が此世の創まりと
言つてあれども何の事やら

36 此度の自由自在で得心せ
今迄こんな事は知ろまい

(183)

(182)

37 月日より胎内よりも入り込んで
自由自在を皆して見せる

38 此程の自由自在の真実を
話するのは今初めやで

39 此先は何時になりても此道理
自由自在を早く知らする

40 今迄も如何なる道も通りたが
おびや救けの試し始め哉

41 此度はおびや救けの真実を
早く救けを月日急けども

42 一列は今迄知らん事やから
皆じっくりといずみいる也

43 真実に心定めて願うなら
自由自在に今の間にも

44 此事は誰でも知らぬ事やから
胸が分らん月日残念

(185)

(184)

52 何の様な事を言うのも人間の心では無い月日心哉

51 此程に思う月日の真実を側の心は未だ世界並

50 月日より自由自在を真実に早く見せたい此が一条

49 早々と心勇んで急ぎ込め月日待ち兼ね此を知らんか

48 此程に月日の心急ぎ込めど側の心は何でいずむぞ

47 何の様な事はいかんと言わんでな助け一条急えているから

46 真実の心有るなら何也と早く願えよ直に叶うで

45 今迄は何様の事も見えねども此から先は早く見えるで

(187)

60 月日より此迄なるの残念は山々積み重なりて有る

59 此からは月日出張りをする程に何んな事でも返ししてやる

58 此先は何の様な事を言うにもな怖み危なき無いと思えよ

57 今迄は日柄も一寸来たらんで何様の事も控えいたるで

56 此からは何を言うにも為す事も人間なると更に思うな

55 今迄は同じ人間なる様に思っているから何も分らん

54 確と聞け此から心入れ替えて人間心有ると思つな

53 今迄は何を言うても人間の心が混じる様に思うて

(189)

68 其からは今迄月日確りと抱き締めていた早く見せたい

67 此元は六年以前に三月の十五日より迎い取りたで

66 此ばかり人並やとは思つなよ何でも月日偉い思惑

65 此度の孕みているを内なるは何と思つて待ちているやら

64 月日より此自由を世界中へ早く一列知らしたるなら

63 上たるの心速やか分りたら月日自由早くするのに

62 此からは何の様な高い処でも此真実を早く見せたい

61 如何程に残念積み有るとても如何せこうせは言うで無いぞ哉

(191)

(186)

(188)

(190)

69 其知らず内なる者は何も彼も
世界並なる様に思つて

70 此話如何言つ事に思つかな
此が第一此世創まり

71 又先の道の様態段々と
万の事を皆説いて置く

72 名は玉恵早く見たいと思つなら
月日教える手を確り

73 此話真実思ふ事ならば
心治めて早く掛かれよ

74 今迄は何を言つても一列の
胸も分らん日も来たらいで

75 段々と胸が分れば日も来たる
月日の心偉い急き込み

76 此さいか早く見えたる事ならば
何んな者でも敵う者無し

(193)

(192)

77 月日より此を確り見せたなら
後の仕事は何んな事でも

78 今迄もおびや庖瘡の此許し
何と思つて皆かいたやら

79 此度は何んな事でもすぎやかに
皆真実に言つて聞かする

80 此からはおびや救けも確りと
切なみ無しに早く産まする

81 段々と口で何事言つたとて
月日言つ様にせねばいかんで

82 月日より何の事でも確りと
言う様にせよ違つ事無し

83 何の様な救けするのも皆勤め
月日言つ様に確かするなら

84 真実の心有るなら月日にも
確と請け合い救けするぞ哉

(195)

(194)

85 此度は救けするのも真実に
請け合て救け今が初め哉

86 此程に月日の心急えている
側の心も勤め拵え

87 此模様何ばかりでは無い程に
何んな事でも皆勤めやで

88 勤めでも同じ事では無い程に
皆其々と手を教える

89 今迄の道のすがらと言つものは
如何言つ道も知りた者無し

90 此からは何の様な道も段々と
万道筋皆言て聞かす

91 月日より何も道筋聞いたなら
此残念は無理で有るまい

92 月日より此一条を晴らしたら
後の処は陽気づくめ哉

(197)

(196)

100 此話如何言う事に聞いている
このはなし どういふこと きこ いて いる
世界救ける模様ばかりを
せかいを たすけ る もようばかりを

99 此道を早く教える此勤め
このみちを はやく おし る このつとめ
世界一列心澄まする
せかいいちれつしん じやうまする

98 此救け如何なる事と思ふかな
このたすけ どうなること おも かな
痲瘡せん様の勤め教える
かさぜんようの つとめ おし る

97 此勤め如何言う事に思ふかな
このつとめ どういふこと おも かな
おびや痲瘡の救け一条
おびや かさの たすけ いちじょう

96 後なるは日々心勇むで
あとなる は 日々 しん ゆむ で
万の勤め手を付けるで
まんの つとめ てを つける で

95 段々と勤め教える此模様
だんだん と つとめ おし る このよう
胸の内より皆掃除する
むねのうちより みなそうじ

94 何も彼も陽気と言うは皆勤め
なんにも か も ようき と いふ は みなつとめ
珍し事を皆教えるで
めづらしきこと を みなおし る で

93 日々に陽気つくめと言つのはな
に日に ようき つくめ と いふ の は な
如何なる事や誰も知るまい
いかなること たれ も しる まい

(199)

(198)

108 月日には何の様な事も一列に
つきひ に は なんの ような こと も いちれつ
皆に教えて陽気つくめに
みな おし て ようき つくめ に

107 人間の心で思う様な事
にんげん の こころ おも う ような こと
月日は何も言つて無いぞ哉
つきひ は なんも いふ て ない ぞ や

106 月日より何の様な事も教えるで
つきひ より なんの ような こと も おし る で
此世創めて無い事ばかり
このよはじ ころめ て ない ことばかり

105 此からは何の様な勤め教えるも
これからは なんの ような つとめ おし る も
人間なるの心では無い
にんげん なる の こころ では ない

104 今迄は月日如何程思つても
いままで つきひ どういかに おも へ ても
側の心に分り無いので
そばの こころ に わかり ない の で

103 心さい真実澄んだ事ならば
こころ さい しんじつ じやう だ こと ならば
何んな事でも違つ事無し
なんなん こと でも ちがふ こと 無し

102 此事を此を真に思つたら
このこと を これ まこと おも たら
誠真実心次第哉
まことしんじつしんじ だい 哉

101 何の様な救けるのも真実の
なんの ような たすけ る の も しんじつ
親がいるから皆引き受ける
おやが いる から みなひきうける

(201)

(200)

111 此世の世界の心勇むなら
このよはじ の せかい の しん ゆむ なら
月日人間同じ事やで
つきひ にんげん ひと ひと こと や で

110 月日にも確か心が勇むなら
つきひ にも たし ころが ゆむ なら
人間なるも皆同じ事
にんげん なる も みなひと ひと こと

109 世界中皆一列は澄み切りて
せかい じゅう みな いちれつ
陽気つくめに暮らす事なら
ようき つくめ に くらす こと なら

(202)

第八号

七十八歳老女

一八七五年（明治八年）五月

1 日々（にちにち）に月日（つきひ）残念（ざんねん）山々（やまやま）と
 積り（つも）て有る（あ）を晴（は）らしたいから

2 此（この）話（はなし）月日（つきひ）思惑（おもつ）段々（だんだん）と
 何（なに）か万（よろず）の救（たす）けなるのは

3 真実（しんじつ）の心次第（こころしだい）に何（なん）の様（よう）な
 勤（しん）めするの（も）皆（みな）救（たす）けやで

4 月日（つきひ）には世界（せかい）中（ちゆう）は皆（みな）我（われ）が子（こ）
 救（たす）けたいとの心（こころ）ばかりで

(205)

5 其（その）処（ところ）差（さ）し止（と）められて残（ざん）念（ねん）な
 まだ其（その）後（あと）は取（と）り払（は）い迄（まで）

6 其（その）故（ゆえ）に救（たす）け勤（しん）めが来（き）出（で）れんから
 月日（つきひ）の心（こころ）何（なん）と残（ざん）念（ねん）

7 勤（しん）めでも月日（つきひ）段々（だんだん）と手（て）を教（おし）え
 人（にん）間（げん）なるの心（こころ）では無（な）い

8 何（なん）の様（よう）な事（こと）をするの（も）人（にん）間（げん）の
 心（こころ）有（あ）るとは更（さら）に思（おも）つな

9 此（この）処（ところ）如（い）何（なん）な話（はなし）も月日（つきひ）也（なり）
 何（なん）な模（も）様（よう）も皆（みな）月日（つきひ）やで

10 如（い）何（なん）なるの障（さわ）り付（つ）いても人（にん）間（げん）の
 心（こころ）は更（さら）に有（あ）ると思（おも）つな

11 此（この）世（よ）を創（は）じ出（だ）したる月日（つきひ）なら
 何（なん）な事（こと）でも知（し）らぬ事（こと）無（な）し

12 世界（せかい）中（ちゆう）一（いち）列（れつ）なるの胸（むね）の内（うち）
 月日（つきひ）の方（ほう）へ皆（みな）映（うつ）る也（なり）

(207)

13 其（その）知（し）らぬ皆（みな）人（にん）間（げん）の心（こころ）とて
 我（われ）身（み）思（し）案（あん）をばかり思（おも）つて

14 此（この）先（さき）は皆（みな）段々（だんだん）と真（しん）実（じつ）の
 道（みち）を教（おし）える事（こと）であるから

15 此（この）世（よ）の創（は）じまり出（だ）しは月日（つきひ）也（なり）
 何（なん）か委（い）細（さい）を皆（みな）教（おし）え掛（か）け

16 其（その）迄（まで）は誰（たれ）か知（し）りたる者（もの）は無（な）し
 何（なん）か月日（つきひ）の思（し）案（あん）ばかりで

17 今日（けふ）迄（まで）も何（なん）の事（こと）も月日（つきひ）やと
 言（い）つてあれども未（ま）だ分（わか）らんで

18 確（しか）と聞（き）け此（この）世（よ）創（は）じ真（しん）実（じつ）と
 言（い）つて話（はなし）は説（せつ）いてあれども

19 世界（せかい）には誰（たれ）か知（し）りたる者（もの）は無（な）し
 何（なん）を言（い）つても分（わか）り難（がた）ない

20 其（その）筈（はず）や此（この）世（よ）創（は）じ無（な）い事（こと）を
 段々（だんだん）口（くち）説（せつ）きばかりなるから

(209)

(208)

28 何の様な救けするにも人並の様なる事は言うで無いから

27 此世を創め出したる真実を皆一列は承知せえねば

26 此話如何言う事に思つかない如何言う話も皆したいから

25 此世の本源なると言うのはな此処より他に有るまい

24 何の様な事も段々言て聞かす此を真と思て聞き分け

23 何の様な事でも月日言う事哉此真実と思て聞くなら

22 今迄も救け一条と間々説けど本真実を知らぬ事から

21 此世の創まり出しの真実を知らして置かん事においては

(211)

(210)

36 此処勤め場所は人間を創め出したる処なるぞ哉

35 此世を創め出したる本心を言て聞かさん事においては

34 月日には大抵心は尽せども世界中は未だ世界並

33 此程の自由自在を言うのもな容易なる事と更に思ふな

32 又救けおびや自由何時也と延ばし也とも早めなりとも

31 此救け如何言う事に思つかない瘡癩せん様の守り拵え

30 此迄に無い事ばかり言て聞かし真実よりの救けするぞ哉

29 今迄に見えたる事や有る事はそんな事をは言うで無いぞ哉

(213)

(212)

44 此程に思う月日の心配を世界の者は何も知らずに

43 月日には段々知らぬ事ばかり何も教えて世界救ける

42 何の様な者でも知らぬ事ばかり此を教える月日思惑

41 此度も又無い事や知らぬ事ばかり言つて又教え掛け

40 今迄も無い世界をば創めたは知らぬ事をば教え始めて

39 此様な無い事はかり言うのはな此が真実皆真やで

38 此話を真に思ふ者何処の者でも更にあるまい

37 人間を創め出したる此親は存命でいる此が真哉

(215)

(214)

45 心こころさい月つき日ひ真実しんじつ受け取とれば
何なんんな救すくけも皆みな請まをけ合あうで

46 何どの様ような救すくけと言いつも真実しんじつの
親おやが在あるから月つき日ひ言いつうの哉や

47 此この月つき日ひ元もとなるぢばや元もとなるの
因縁いんえん有あるで自由じゆう自在ざい在ざいを

48 此この話はなし何なんで此この様ように諄しんいなら
救すくけ一いっ条じょう請まをけ合あつうの元もと

49 此この元もとは何なん処ところを尋たずねて見みたるとも
知しりたる者ものは更さらに有あるまゐ

50 其その筈はずや月つき日ひ体たい内ない入いり込こんで
話はなしするのは今いま初はじめやで

51 此この世せ界かい一いち列れつ見みえる月つき日ひなら
何なん処ところの事ことでも知しらぬ事こと無なし

52 月つき日ひより皆みな其それぞれ々ぞれと見み定みめて
善ぜんと悪あくとを見み分わけするぞ哉や

(217)

(216)

53 月つき日ひより何なんで此この様ように諄しんいなら
悪あしき見みえるが氣きの毒どくなから

54 段々だんだんと恩おんが重おもなり其その上うへは
牛馬ぎうばと見みえる道みちが有あるから

55 何どの様ような者ものでも月つき日ひ真実しんじつを
受うけ取とりたなら皆みな救すくけるで

56 今いま迄までは何なんんな話はなしをしたるとも
何なんも見みえたる事ことは無なけれど

57 此この迄までも皆みな見みえ来きたる事ことなれど
本元ほんもとなるを知らん事ことから

58 雷かみなりも地じ震しん大風おおかぜ水漬みずきも
此このは月つき日ひの残念ざねん立腹りつぷく

59 此この事ことを今いま迄まで誰たれも知しらんから
此度このたび月つき日ひ先さきへ知しらする

60 月つき日ひには皆みな一いち列れつは我わが子こ也なり
可か愛あい一杯いっぱい思おもていれども

(219)

(218)

61 一列いちれつは皆みな銘々めいめいの胸むねの内うち
埃ほり一杯いっぱい積つもり有あるから

62 此この埃ほりすきやか掃除そうじせん事ことに
月つき日ひ如ごとく何程いかに思おもつたるととて

63 月つき日ひより怖こわき危あぶなぎ道筋みちすじを
案あんじていれど銘々めいめい知らず

64 何どの様ような高たかい処ところと言いつたとて
月つき日ひのたあに皆みな我わが子こやで

65 其その知しらず親おやのする事こと差さし止とめて
又また取とり払はらて此このは如何いかぞ

66 月つき日ひには今いま迄まで何んな事ことやとて
現あらわ出でたる事ことは無なけれど

67 此度このたびは胸むねの内うちよりすきやかに
晴はらさん事ことに後あとの模様もようを

68 此この後あとは何なんの様ような者ものも一列いちれつに
救すくけたいとの手て段だんばかりを

(221)

(220)

76 此様な知らぬ事をば段々と
言つていれども此が真哉

75 人間を創めた親がもう一人
何処に有るなら尋ね行て見よ

74 今迄も何を教えて来たるのも
皆此道理創め掛けたで

73 何の様な事を教えて掛かるのも
元なる親で無くばいかんで

72 確と聞け同じ人間なる様に
思っているのは此は違つて

71 今迄もあ諄い程も説いて有る
なれど心に分り無いから

70 何事も月日一度言つた事
違ひそうなる事は無いぞ哉

69 此先は救け一条に掛かりたら
何の様なる者も勇むばかり哉

(223)

84 したるなら其より勤め手を揃い
早く掛かれよ心勇むで

83 掃除した処を歩き立ち止まり
其処より甘露台を

82 来たるなら我身障りと引き合わせ
同じ事なら早く掃除を

81 此先は彼方此方に身に障り
月日手入りをすると見えよ

80 此話如何言つ事であろつたら
甘露台に平鉢を載せ

79 此話何の事やら一寸知れん
月日食物やると言つた哉

78 此世の人間創め親なるに
天の与えは有ると聞けども

77 日々に知らぬ事をや無い事を
此教えるが月日樂しみ

(225)

88 何の様な高い処の者やとて
自由次第に話する也

87 何言つても真実なるの証拠が
見えん事には後の模様を

86 此さいか確が見え来た事ならば
何んな者でも恐る者無し

85 此ばかり何処尋ねても無い程に
此日本の眞の柱哉

84 此ばかり何処尋ねても無い程に
此日本の眞の柱哉

83 此ばかり何処尋ねても無い程に
此日本の眞の柱哉

82 此ばかり何処尋ねても無い程に
此日本の眞の柱哉

81 此ばかり何処尋ねても無い程に
此日本の眞の柱哉

(226)

第九号

七十八歳老女

一八七五年(明治八年) 六月

1 今迄は何を言つても人間の
心の様に思っていたれど

2 此度は何を言つても人間の
心有るとは更に思つた

3 何の様な事でも確と聞いてくれ
人間心更に混ぜんで

4 月日より何の様な事も確りと
言い掛けるでな此聞いてくれ

(229)

5 月日より社となるを二人共
別間隔てて置いて貰たら

6 何言つても其より確と請け合つて
救けするぞや確と見ていよ

7 此先は何の様な救けるのみな
皆請け合うの元であるから

8 何の様な事を言つても消さん様
確か聞きすみ承知してくれ

9 此先は何んな難し病でも
皆請け合つて救けするぞ哉

10 人間に病と言つて無いけれど
此世創まり知りた者無し

11 此事を知らしたいから段々と
修理や肥に医者薬を

12 此からは何か方を皆説くで
何んな事でも確と聞くと

(230)

13 此迄も大抵話も説いたれど
未だ言つて無い真実の事

14 今日からは何の様な事を言つやらな
月日の心真急ぎ込み

15 日々に何急ぎ込むと言つならば
月日飛び出る模様ばかりを

16 此話確り聞いて承知せよ
何んな事をばするや知れんで

17 此先の道の様態確りと
聞き分けてくれ月日頼み哉

18 月日より飛び出た事を聞いたなら
甘露台を早く出す様

19 甘露台据える処を確りと
ぢばの処を心積りを

20 此さいか確か定めて置いたなら
何んな事でも危なきは無い

(233)

(232)

28 此世を一行なるに眞実を
救けたいから知らし掛けるで

27 此様な事を言い掛け知らするも
何の事やら誰も知らまい

26 知らするも何知らすると思つかな
元なる親を確か知らする

25 此度は何の様な事も確りと
皆一行に知らす事也

24 今迄は三十八年以前から
胸の残念眞氣の毒

23 世界中皆段々と言つてである
其日来たれば胸が晴れるで

22 其話聞いたるならば一行は
何と月日は偉い者やと

21 月日より飛び出る処一寸話
高い処や遠い処い

(235)

(234)

36 此度の悩む処は辛かろう
後の処の楽しみを見よ

35 此からは確かに薬味言て聞かす
何を言つても承知してくれ

34 此度は何んな難し病でも
請け合て救け家伝教える

33 万代の世界一行見渡せよ
病と言つても色々有る

32 此話誰が言つとは思つなよ
月日の心ばかりなるぞ哉

31 元なるの親を確かに知りたなら
何んな事でも皆引き受ける

30 今迄も知らぬ事をば教えるは
元なる親を確か知らする

29 今迄に無い救けをばするからは
元を知らさん事においては

(237)

(236)

44 此からは何の話をするならば
甘露台の話一条

43 段々と何の話をするにもな
先なる事をばかり言て置く

42 何の様な事を言つても今の事
何を言つとは更に思つな

41 側なるに如何程月日頼んでも
聞き分けが無い何と残念

40 眞実に此一条を早々と
月日の心急えていれども

39 此話如何言つ事に思つかな
月日自由 知らしたい故

38 何の様な事をするにも先いより
断りた上掛かる仕事哉

37 先よりに精一杯に断りが
言つてあるぞや思案してみよ

(239)

(238)

45 今なるの甘露台と言うのはな
一寸の雛型迄の事やで

46 此からは段々確と言て聞かす
甘露台の模様ばかりを

47 此台を少し彫り込み差し渡し
三尺にして六角にせよ

48 今迄に色々話説いたるは
此台据える模様ばかりで

49 此さいか確り据えて置いたなら
何も怖みも危なきも無い

50 月日より指図ばかりでした事を
此止めたなら我身止まるで

51 此を見て誠実結構と
此は月日の教えるかよ

52 此台が出来立ち次第勤めする
何んな事でも叶わんで無し

(241)

(240)

53 此台も何時如何せえと言わんでな
出来立ちたなら勤めするぞ哉

54 此さいか勤めに掛かり出たならば
何叶わんと言うで無いぞ哉

55 此を見よ確かに月日食物の
与え確り確か渡する

56 何の様な事でも確か真実の
証拠無ければ危うき事

57 此からは何の様な事も段々と
細かく説く此背くなよ

58 此話何を言つやと思つなよ
甘露台の模様一条

59 此台も段々と積み上げて
又其上は二尺四寸に

60 其上へ平鉢載せて置いたなら
其より確か食物をやる

(243)

(242)

61 食物を誰に与える事ならば
此世創めた親に渡する

62 天よりに与えを貰う其親の
心を誰か知れた者無し

63 月日より確かに心見定めて
其より渡す食物の事

64 月日には此を渡して置いたなら
後は親より心次第に

(244)

第十号

七十八歳老女

一八七五年（明治八年）六月

1 眞実の心月日が見定めて
天より渡す予えなるのは

2 一寸したる事とは更に思うなよ
天より深い思惑が有る

3 此話如何言つ事であらうなら
唐天竺も心澄まして

第十号
4 此心如何して澄ます事ならば
月日飛び出て彼方此方と

(247)

5 段々と月日体内入り込んで
自由自在をして掛かるでな

6 したるなら何ほ唐やと言つたとて
日本の者に此は敵わん

7 日々に見える処で得心せ
何時何んな話聞くやら

8 何の様な話聞いても先いより
此は月日の話なるの哉

9 此からは日本の者は段々と
月日引き立て此を見ていよ

10 何も彼も何の様な事も皆教え
知らん事をは無い様にする

11 日本には柱を立てた事ならば
病まず死なずに弱り無き様に

12 今迄は唐やと言つて蔓延りて
儘にしていた今度返しを

(249)

13 此話誰に如何せと言つて無し
月日飛び出て儘にする也

14 此迄も月日を知らん者は無い
なれど本元知りた者無し

15 此度は何の様な事も眞実を
言つて聞かして救け急ぐで

16 此日柄何時頃なると言つならば
田の修理を終い次第に

17 其からは何か珍し道に成る
勤めの人衆皆寄りて来る

18 段々と日々心勇むでな
何と大和は偉い豊年

19 日々に早く勤めを急ぎ込めよ
如何なる難も皆逃れるで

20 何の様な難しくなる病でも
勤め一条で皆救かるで

(251)

(250)

21 勤めでも如何言う勤めするならば
甘露台の勤め一条

22 此台を如何言う事に思ふかな
此日本の親であるぞ哉

23 此さいか誠真実思ふなら
月日見分けて皆引き受ける

24 月日より引き受けると言つからは
千に一つも違ふ事無し

25 此話如何言う事に聞いている
甘露台の勤めなるのは

26 一寸したる勤めなるとは思ふなよ
三十六人が欲しいで

27 其内に鳴物入れて十九人
神楽勤めの人衆欲しいで

28 真実に心定めて思案せよ
取次の人確と頼むで

(253)

29 此台を拵えよとて段々に
月日人衆の模様する也

30 人衆が確と寄りたる事ならば
其儘台も出来る事やで

31 此道は如何言う事であるならば
月日勤めの手を教えて

32 其よりも月日一列世界中
連れて出たならひとり出来るで

33 此さいか確かに出来た事ならば
月々勤め違ふ事無し

34 勤めさい違はん様に成つたなら
天の与えも違ふ事無し

35 此道は誠真実難しい
道であるぞや皆思案せよ

36 此人衆何処に有るやら知ろまいな
月日見分けて皆引き寄せる

(255)

37 何の様な処の者と言つたとて
月日自由して見せるでな

38 段々と人衆揃つた其上で
真実を見て役割をする

39 役割も如何言う事であるならば
神楽十人後い鳴物

40 此さいか早く確り揃たなら
何んな事でも出来ん事無し

41 今日からは段々文句変わるでな
今迄知らん事はかり言つ

42 今迄も何の様な道も有るけれど
月日教えん事は無いぞ哉

43 月日より大抵何も段々と
教えて来たる事であれども

44 此度は又其上の知らん事
何も真実皆言て聞かす

(257)

(252)

(254)

(256)

- 45 此迄は唐やと言つて蔓延りた
此も月日が教え来たるで
- 46 此度は月日元へと立ち返り
木の根確り皆現すで
- 47 此世の元を確り知りた者
何処の者でも更に有るまい
- 48 真実に此元さいか確りと
知りたるならば何処に行たとて
- 49 此話何と思つて聞いている
此取次に仕込みたいの哉
- 50 何の様な事を月日の思うには
人間元を此世界中へ
- 51 早々と此真実を一行に
知らしたるなら話分るで
- 52 如何程に話を説いて聞かしても
元を知らして置かん事には

(259)

(258)

- 53 元さいか確り言つて置いたなら
何を言つても皆聞き分ける
- 54 此世の地と天とは実の親
其より出来た人間である
- 55 此からは唐も日本も知らん事
ばかり言うぞや確と聞く也
- 56 何の様な事も知らんと言わん様
皆一列に仕込みたいから
- 57 日々に月日の心思うには
多くの人の胸の内をば
- 58 此心如何したならば分るやら
どうぞ早くに此を分けたい
- 59 世界中真実よりも胸の内
分りたならば月日楽しみ
- 60 其からは一列なるの胸の内
分りたならば月日其より

(261)

(260)

- 61 段々と日々心勇め掛け
陽気つくめを皆に教えて
- 62 世界中多くの人の胸の内
皆澄ましたる事であるなら
- 63 其よりも月日の心勇み出て
何んな事でも皆教えるで
- 64 何の様な事でも月日真実に
皆一列に教えたいの哉
- 65 真実の心が欲しい月日には
何んな事でも仕込みたいから
- 66 此話何を仕込むと思つかな
これから先の万道筋
- 67 今日迄は何様の事も見えねども
日が近付けばひとり見えるで
- 68 何の様な事も病と思つなよ
何が方は月日手入り哉

(263)

(262)

69 月日より日々心急ぎ込んで
何んな模様をするや知れんで

70 急ぎ込みも何の事やら知るまいな
甘露台の模様ばかりを

71 日々に身の内障り付いたなら
此は月日の手入りなるかよ

72 段々と見澄ます処世界中
気の毒なから文句変えたい

73 思案せよ口で何事言つたとて
確かな証拠無くばいかんで

74 月日より体内よりも入り込んで
自由自在の指図証拠哉

75 其故に今迄何処に無い事を
ばかり言つて創め掛けるで

76 今迄も無い事ばかり言つのもな
此も月日の皆教えやで

(265)

(264)

77 此度の甘露台と言つのもな
此も今迄知らん事やで

78 何の様な事を言つのも皆月日
知らん事をば教えたいから

79 此屋敷甘露台を据えるのは
人間創め掛けた証拠

80 何事も皆此通り創め掛け
世界中の心澄まする

81 日々に何でも世界一列を
勇める模様ばかりするぞ哉

82 段々と世界の心勇むなら
立毛諸共皆勇み出る

83 此心如何して勇む事ならば
月日人足連れて出るぞ哉

84 其迄に彼方此方と何の様な
話段々皆聞くであろ

(267)

(266)

85 何の様な話聞くのも皆先い
言つて有るぞや思案してみよ

86 月日には何を段々言われると
思うであろう先の楽しみ

87 何事も月日の心思うには
日本に口記欲しい事から

88 日本にも口記を確か拵えて
其広めたら唐は儘也

89 此話何と思つて皆のもの
日本の者は皆我が事哉

90 其知らず何と思つて上たるは
胸が分らん月日残念

91 此処何の様な口記したるとも
此は日本の宝なるぞ哉

92 一列の心定めて思案せよ
早く口記を待つ様にせよ

(269)

(268)

第十号

100 此道このみちを上かみへ抜ぬけたる事ことならば
自由自在じゆうじざいの働はたらきをする

99 月日つきひには何なんでも彼かでも真実しんじつを
心こころ確しつり通とおり抜ぬけるで

98 此道このみちは如何どう言いう事ことに皆みなの者もの
思おもっているやう一寸ちんに分わからん

97 日々にちにちに取次とりつぎの人ひと確しつりと
心こころ静しずめて早はやく掛かかれよ

96 此日このひ柄刻ひからく限来げんきたる事ことならば
何時なんじ月日つきひ何処どこい行いくやう

95 其故そのゆゑに取次とりつぎより確しつりと
頼たのみ置おくから承知しやうちしていよ

94 月日つきひより広めひろめをすと言いつたとて
皆みなの心こころは承知しやうち出来できまい

93 真実しんじつの口記くきが出来できた事ことならば
何どんな事ことでも月日つきひ広める

(271)

(270)

104 段々だんだんと此道筋このみちすじの様態ようたいは
皆我みなわれが事ことと思おもて思案しあんせ

103 此先このまきは世界せかい中ちゆうは何処どこ迄までも
陽氣ようきづくめに皆みなに掛かかる

102 心こころより真実しんじつ分わかり澄すみ切きりて
何どんな事ことでも親おやに凭もたれる

101 月日つきひより此働このはたらきを仕掛しかけたら
如何いかな剛ごう的てきたると言いつても

(272)

第十一号

七十七歳老女

一八七四年(明治七戌年) 一月より

1 胸先へ厳しくこえ来たるなら
月日の心急き込みである

2 此先は一系列なるに段々と
身の内障り皆付くである

3 何の様な障り付いても案じなよ
月日の心偉い思惑

4 身の内に障り付いても銘々の
心其々皆分けるでな

(275)

5 真実に思ふ心と銘々の
思案ばかりを思っているを

6 月日には何の様な心いる者も
此度確と分けて見せるで

7 何の様な心も確と見ているで
月日此度皆分けるでな

8 口先の追従ばかりは要らんもの
心の誠月日見ている

9 此迄も色々話説いたれど
本真実が見えて無いので

10 今日の日は何の話をしたるとも
違ふ様な事は言わねど

11 月日より一度言つて置いたなら
何時になりても違ふ事無し

12 其知らず側の心は誰にても
世界並なる様に思つて

(277)

13 此度の悩む処で得心せ
皆の心も銘々心も

14 此事を自由自在は違わねど
皆の心に承知無けねば

15 一列に承知をしたる事ならば
月日請け合て確か救ける

16 此救け如何言う事に思つか
三日目には外に出る様

17 此迄も月日と言つて段々と
話も説いて来たるなれども

18 未だ心の処は更に分るまい
此度何んな事も現す

19 話でも同じ処で言つたらば
何と人間心なる様

20 皆の者思ふ心は気の毒哉
此度処変えて話を

(279)

(278)

- 28 此話如何言つ事であるならば
先の方は月日引き受け
- 27 何も彼も何の様な事も知らずは
先の思惑有るからの事
- 26 此ばかり病等とは思つなよ
月日自由知らしたい故
- 25 此度の悩んでいるを病やと
思っているのは此は違つて
- 24 月日より現れ出ると言つたとて
段々何も断りた上
- 23 此先は精一杯に段々と
断りた上掛かる事也
- 22 体内へ月日入り込み自由を
言つていれども承知あるまい
- 21 此聞いて如何な者でも得心せ
月日自由皆此道理

(281)

(280)

- 36 人間は浅ない者であるからに
月日言われる事を背いた
- 35 こんな事早く知りたる事ならば
切なみも無し心配も無し
- 34 其知らずどうと去なさず此処で
養生さして置くことと思たで
- 33 あれ去んで此程何もすきやかに
救かる事を早く知りたら
- 32 此事は一寸の事やと思つなよ
此は日本の口記なるの哉
- 31 此者に月日万の仕込みする
其で珍し救けるの哉
- 30 因縁も如何言つ事であるならば
人間創め元の道具哉
- 29 月日より引き受けすると言つのも
元の因縁有るからの事

(283)

(282)

- 44 月日には何の様な道も見えてある
世界中は其を思わす
- 43 其知らず皆一列は銘々に
我身思案で仕事ばかりを
- 42 此支え人並なると思つなよ
月日の心真心配
- 41 月日より社となるの胸先の
支えてあるを何と思つぞ
- 40 此先は何の様な事を言われても
月日言われる事は背かん
- 39 此様な結構なるの道筋を
知らずにいたが後の後悔
- 38 何の様な事をするにも月日にて
凭れていれば危な気は無い
- 37 此からは何んな事でも月日には
凭れ付かねばならん事やで

(285)

(284)

45 此道を子供一列思案せよ
このみちをこどもいちれつしやんせよ

46 何の様な事でも先へ知らし置く
あつどのやうなこともさきへしらしおく
後で後悔無き様にせよ

47 こんな事何を言つやと皆の者
おもこんなことをいふやとみなもの
思つであらう子供可愛

48 世界中多くの子供胸の内
せかいじゅうのこどもむねのうち
分る模様か此は無いかよ

49 此様な事を諄々言つものな
このやうなことをしんしんいふものな
道を案じている模様から

50 此からは何の様な事も言て聞かす
これからはなんのやうなこともいひきかす
此を必ず嘘と思ふな

51 此度の月日の仕事確と聞け
このたびのつきひのしごとしか
悪しきの様な事はせんぞ哉

52 どうぞして珍し救け教えたさ
そこどうしてめづらしきうけおし
其処で掛かりた仕事なるぞ哉

(287)

53 今迄と心確り入れ替えて
いままでこころしづかりかへか
陽気つくめの心なる様

54 此心如何して成ると思ふかな
このこころいかになるおもふかな
月日体内入り込んだなら

55 日々にひとり心が勇む也
いちにちにひとりこころがゆうむなり
陽気つくめの心なる様

56 月日より日々心勇め掛け
つきひよりひびこころゆうめかけ
陽気つくめにして掛かるでな

57 此話何と思つて聞いている
このはなしなんおもひきいて
救け一条の模様ばかりを

58 月日より何んな事でも見ているで
つきひよりなんなこともみているで
何を言つても皆承知せよ

59 今年から七十年は夫婦共
ことしからしちじゅうねんはふうふども
病まず弱らず暮らす事なら

60 其よりの楽しみなるは有るまいな
そのよりのたのしみなるはあ
此を真に楽しんでいよ

(289)

61 月日には今迄何処に無い事を
つきひにはいままでどこにないことを
ばかり言つぞや承知して聞け

62 此様な無い事はかり言つけれど
このやうなないことはかりいひけれど
先を見ていよ皆真やで

63 何分に珍し事をするからは
なんにぶんめづらしきことをするからは
如何な話も無い事ばかり

64 何の様に無い事はかり言つたとて
なんのやうにないことはかりいひたとて
先を見ていよ見える不思議哉

65 今なるの悩んでいるは辛けれど
いまなるのなやんでいるはつらけれど
此から先は心楽しみ

66 此様な話諄々言つものな
このやうな話はしんしんいふものな
此は末代口記なるの哉

67 月日より此度此処で現れて
つきひよりこのたびここであらわ
何んな事をも話するのは

68 何の様な事も段々知らしたさ
なんのやうなこともだんだんし
日本の口記皆拾える

(291)

(286)

(288)

(290)

69 此世の創まり出しは大和にて
山辺郡の庄屋敷也

70 其内に中山氏と言う屋敷
人間創め道具見えるで

71 此道具いざなぎいいいざなみと
くにさづちいと月よみと也

72 月日より其を見澄まし天降り
何か万を仕込む模様を

73 此処何をするにも何の様な
事をするのも皆月日也

74 何の様な事を言うにも皆月日
側なる者は真似をして見よ

75 此世を創めてからに今日迄は
本真実を言った事無し

76 今日の日は何の様な事も真実を
言わねばならん様に成るから

(293)

(292)

77 銘々に何を言うとは思つなよ
月日の思う様に言うの哉

78 何時に歸りて来ても銘々の
心有るとは更に思つな

79 何の様な者も心から得心を
さして歸るで此を見ていよ

80 如何程の剛的たるも発明でも
月日の心此は適わん

(294)

十二号

十二月廿七日より

- 1 今日からは世界を月日見定めて
胸の掃除に掛かる事也
- 2 此掃除内も世界も隔て無い
銘々の心皆現すで

(297)

三月十四日より

- 3 今迄は神の残念山々と
胸に埃が積りあれども
- 4 情ない日柄も一寸来たらんで
何の様な事も言つに言われん
- 5 此度は月日真実見兼ねるで
何の様な事も皆現すで
- 6 今日の日は何程我身蔓延りて
儘にしたとて月日退く

四月四日より

- 7 此話何の事をば言つならば
日本も唐も天竺の事
- 8 此からは世界中を一系列に
月日掃除をするで承知せ
- 9 此迄も精一杯に断りを
月日段々言つて有れども

(299)

(298)

- 10 口先で言うたる迄は誰にても
確か承知をする者は無い
- 五日
- 11 今迄も月日の心段々と
精一杯に尽しいれども
- 12 世界には誰か知りたる者は無し
どうむ此度月日は非無い

- 13 其故に世界中を何処迄も
断りて置く月日退く

十二日

- 14 今日の日は何の話をするならば
用木の初め事ばかり言つ
- 15 用木でも人は誰とも言わねども
元は一本枝は八本

(301)

(300)

16 此木を早く接ぎたい急ぎ込みで
月日の胸が支え切る也

17 此木も一枝確と接いだなら
後なるは皆早く定まる

18 何も彼も月日言う事確と聞け
心に定め付けた事なり

19 其よりも身の内悩み更に無し
段々心勇むばかり哉

20 其知らず皆の心は誰にても
世界並なる事ばかり言う

21 此処世界並とは思つなよ
月日の心ばかりなるぞ哉

十四日

22 今日の日月の心残念は
容易なる事で無いと思ふよ

(303)

(302)

23 人間は浅ない者であるからに
月日する事知りた者無し

24 月日には何か万を段々と
断りてある此が承知か

25 今迄も何か月日の残念を
大抵口説き詰めてあれども

26 世界には誰か知りたる者は無し
月日の心残念を見よ

27 此度は断りた上まだ口説き
其上なるの断りである

28 如何程に口説き断り言つたとて
誰か聞き分けする者は無い

29 其故に段々日柄経つけれど
何時か此やと分る芽は無し

30 今日の日はもう節が来たるから
月日出掛ける皆承知せよ

(305)

(304)

31 此先の道のすがらを言て聞かす
如何な事をば言うや知るまい

32 日々に何を言つても其儘に
見えて来るのが此は不思議哉

33 何の様な事を言うやら知れんぞ
其処で何でも断りばかり

34 断りも一寸の事では無い程に
如何な事を見えて来るやら

35 何の様な事が見えるや知れんぞ
真気の毒思ていれども

36 何時に見える事やら此知れん
月日の心積み切りである

37 此程に月日の心心配を
側なる者は何も知らずに

38 側なるは仕事ばかりを思っている
見えたるならば文句変るぞ

(307)

(306)

39 何の様な事でも先へ知らし置く
後で後悔無き様にせよ

40 此世を初た神の事ならば
何の様な事も皆見えてある

41 此度は何の様な事も積み切りて
もう差し抜きは更に出来んで

42 今迄は何んな事をば言つたとて
未だじつくりとしたるなれども

43 今日の日は横目振る間も油断しな
何時何んな事が有るやら

44 今迄に筆に付けたる断りが
さあ見えて来た心勇むで

45 此さいか見え来たならば一列は
何んな者でも陽気つくめ哉

46 此心どうぞ早く一列は
承知してくれ月日頼み哉

(309)

(308)

47 今日からは珍し事を言い掛ける
何を言つとも一寸に知れまい

48 此話何を言つても背くなよ
神の思惑偉い事やで

49 此からの後なる話山々の
神の残念晴らす模様を

50 此先は何ほ難し病でも
息と手踊り皆救けるで

51 何の様な難くなる病でも
此治らんと云うで無いぞ哉

52 今日迄は日柄刻限来たらんで
何か違いも有りたなれども

53 段々と如何な事をも説いて置く
何んな事でも違つ事無し

54 此迄の道のすがらと言つものは
真難渋な道であれども

(311)

(310)

55 此先の道は何でも気が勇む
何んな珍し道が有るやら

56 とんとんと飛び出る事を見たとして
心案じはするや無いぞ哉

57 後なるは万月日が引き受けて
何時々々迄も陽気つくめに

58 今迄は何様の話したるとも
何時の事なる様に思つて

59 やれ怖や聞くより早くもう見えた
何んな事でも油断出来んで

60 此先を日々心勇めるで
何んな事でも言えは其儘

61 何の様に難しく様見えたとして
陽気勤めで皆救けるで

62 此からは何の様な仕事するやら
心次第に何んな事でも

(313)

(312)

63 月日には段々心残念を
何んな事でも皆晴らすでな

64 何の様な事を言つのも皆月日
如何な仕事をするや知れんで

65 如何なるの事が見えるも皆月日
人間心有ると思つな

66 今日からは何の様な事も急ぎ込んで
何んな働きするや知るまい

67 今なるの月日の思ふ事なるは
口は人間心月日哉

68 確と聞け口は月日が皆借りて
心は月日皆貸している

69 此ばかり恨み有るなら何の様な
事も月日が皆返すでな

70 何の様な事を言つのも皆月日
人間心更に混ぜんで

(315)

(314)

71 如何程に難し様に思たとして
月日引き受け案じ無いぞ哉

72 此先の道を楽しめ一列は
神の残念晴らしたるなら

73 日々に胸の掃除に掛かりたら
何んな者でも敵う者無し

74 此掃除如何言う事に思つか
月日体内皆入り込むで

75 此話何処の事やと思つか
高い処で皆現すで

76 何も彼も月日言つ事思案せよ
何を言つても此違わんで

77 世界中一列心澄ましたさ
何んな事をば月日するやら

78 何の様な事をするのも月日には
救きたいとの一条ばかりで

(317)

(316)

79 此先を確か見ていよ一列は
胸の掃除がひとり出来るで

80 此掃除すきやかしたる事ならば
其儘直に守り拵え

81 此道を月日の心日々に
急ぎ込んでいる誰も知らずに

82 此道へ早く付いたる事ならば
何んな者でも皆勇むでな

83 此話誰かするとは思つなよ
月日の心ばかり言つる哉

84 此世の真実なるを世界中へ
如何してなりと知らしたい故

85 今日迄は一日也と日を延ばし
何の様な事も控えいれども

86 此度はもう日が詰り切るからは
どうも控える事は出来んで

(319)

(318)

87 何時に何の様な事を聞いたとて
此は月日の残念立腹

88 月日には何の様な者も我が子也
可愛ばかりで見てはいれども

89 今迄は世界中は一列に
銘々思案をしてはいれども

90 情無い何の様に思案したとても
人を救ける心無いので

91 此からは月日頼みや一列は
心確り入れ替えてくれ

92 此心如何言つ事であるならば
世界救ける一条ばかりを

93 此先は世界中は一列に
万互いに救けるなら

94 月日にも其心をは受け取りて
何んな救けもすると思ふよ

(321)

(320)

95 此救け如何言ふ事に思ふかな
痂瘡せん様に確か請け合う

96 又救け立毛一列何処迄も
何時も豊作教えたいから

97 此道を早く仕込もと思ふども
一列心分り無いので

98 世界中何処に隔ては無程に
一列思案してくる様

99 真実に心に定め皆付いて
神の言つ事背き無ければ

100 其よりも月日の心確りと
受け取り次第救け急ぎ込む

101 此救け一寸の事やと思ふなよ
此は日本の一の口記哉

102 此さいか早く確り見せたなら
何の様な高い処なるとも

(323)

(322)

103 此ばかり人間業で無いからに
月日自由背き出来まい

104 したるなら如何程高い処でも
真似は出来まい思案してみよ

105 月日より病まず死なずに弱らんの
早く証拠出そと思ふと

106 一列は皆疑うて誰にても
世界並やと思っているので

107 此処人間心更に無し
月日の思ふ事はかりやで

108 其事を誰でも知らぬ事やから
分り無いのが神の残念

109 此心どうぞ真実一列の
心澄まする模様無いかよ

110 心さい早く分りた事ならば
其儘直に証拠出すのに

(325)

(324)

111 今迄は何の様な嘘も聞いていた
もう此からは嘘は聞かんで

112 此からは嘘を言つたら其者が
嘘に成るのも此が承知か

113 月日には嘘と追従此嫌い
此先なるは月日退く

114 其故に一日也と日を延ばし
大抵何も見許していた

115 此度の早く証拠出したいと
言つてゐるのを何と思つぞ

116 証拠も如何言う事に思つか
身の内よりに確か試しを

117 此試し真月日の残念は
容易なる事で無いと思えよ

118 身の内に何処に不足の無い者に
月日歪めて苦労掛けたで

(327)

(326)

119 年限は三十九年も以前にて
心配苦労悩み掛けたで

120 其故に月日言う事何事も
疑つてゐる此無理で無い

121 此度は此胸の内すきやかに
晴らす模様や此が第一

122 此心月日の方へ確りと
付けん事には何んな話も

123 如何なるの事をしたるも皆月日
こんな事をば誰も知るまい

124 今日の日横目振る間も無い程に
早く証拠出して見せるで

125 此見たら何んな者でも得心せ
何の話も皆此道理

126 今迄の此残念と言つものは
口で言つ様な事で無いぞ哉

(329)

(328)

127 今迄は山々残念通り抜け
此度此を晴らしたるなら

128 後なるは何んな病も如何なるの
事であろうが皆救けるで

129 此世の人間元を世界中
知らして置いた事であるなら

130 其からは何んな救けもする程に
一言迄で皆救けるで

131 此迄は段々口説き断りを
言つてあれども芯が分らん

132 此志は如何言う事であろうなら
胸の思案を此が第一

133 何にても胸と口とが違つては
神の心に此は適わん

134 真実が神の心に適わねば
如何程心尽したるとも

(331)

(330)

135 此ばかり如何程誰が相談も
とても適わん月日退く

136 何も彼も神の言う事確と聞け
何を言つても違ふ事無し

137 真実に珍し救け教えたさ
其処で何の様な事も言うの哉

138 此世を初てからに無い事を
何んな事をも教えたいから

139 此世の本来なるの真実を
確り承知せねばいかんで

140 此元を確り知りてゐる者は
何処の者でも更にあるまい

141 此度は本真実を言て聞かす
何を言つても確と承知せ

142 此屋敷人間創め道具はな
いざなぎいいいざなぎと也

(333)

(332)

143 月よみとくにさづちいとくもよみと
かしこねえとが一の道具哉

144 其よりもをふとのべえと言つのはな
此は立毛の一の道具哉

145 次なるはたいしよく天と言つのはな
此は世界の缺なるぞ哉

146 此迄は道具一切皆寄せて
何の様な道も通り抜けたで

147 此先は寄せた道具を見分けて
仕込む模様を急ぐばかり哉

148 此者は何処に有るやと思ふなよ
歳は十一二人いるぞ哉

149 此人は人間創め掛けたる
立毛一切守護道具哉

150 今日の日は何の様な事も言う程に
何を言つても承知してくれ

(335)

(334)

151 今迄も神の思惑間々あれど
日が来たらんで控えいたるで

152 段々ともう日が詰り切るからは
何んな事でも言つて置くぞ哉

153 此迄は何処の人でも同じ事
何を言つても皆疑うて

154 此度は本真実であるからに
此背いたら直に返すで

155 世界には雨を欲しいと思たとて
此元なるを誰も知るまい

156 此元を確り言つて掛かるから
何んな事でも承知するなら

六月廿八日五ときよりはなし

157 今日の日は此世創めて無い話
何を言つても此聞いてくれ

(337)

(336)

- 165 このたびは本眞実の水の事
此度は本眞実の水の事
何んな話をするや知れんで
- 164 この世の水の元なる事をばな
此世の水の元なる事をばな
未だ此迄は言つた事無し
- 163 何の様な夢を見るのも皆月日
何の様な夢を見るのも皆月日
真見るのも皆月日やで
- 162 月日には体内よりも籠りいて
月日には体内よりも籠りいて
何んな仕事をするや知れんで

(339)

- 161 此度は此世創めて無い事を
此度は此世創めて無い事を
何んな事でも皆現すで
- 160 何の様な事をするのも皆月日
何の様な事をするのも皆月日
何を言つのも皆月日やで
- 159 此心を誠眞実して見せる
此心を誠眞実して見せる
此見たならば皆得心せ
- 158 此世は神の世界と言いなから
此世は神の世界と言いなから
何んな事でも心は知らんで

(338)

- 173 此度は何んな事でもすきやかに
此度は何んな事でもすきやかに
現れ出して皆して見せる
- 172 此見たら何んな者でも眞実に
此見たら何んな者でも眞実に
胸の掃除がひとり出来るで
- 171 銘々の心身の内何の様な
銘々の心身の内何の様な
事でも確と皆現すで
- 170 今日の日は何の話をするやらな
今日の日は何の話をするやらな
何んな事でも承知してくれ

(341)

- 169 此さいか見え来たならば何の様な
此さいか見え来たならば何の様な
事も危なき更に無いぞ哉
- 168 日々に高山にては段々と
日々に高山にては段々と
何んな事をば頼み尋ねる
- 167 今日からは何の様な事も言い掛ける
今日からは何の様な事も言い掛ける
何を言つても確と聞かぬ也
- 166 此元を確かに言つて掛かるから
此元を確かに言つて掛かるから
世界並なる事で言われん

(340)

- 181 此話月日の心ばかりやで
此話月日の心ばかりやで
人間心有ると思ふな
- 180 さあ思案此心さい確りと
さあ思案此心さい確りと
定め付いたる事であるなら
- 179 此見たら何んな者でも眞実に
此見たら何んな者でも眞実に
頭傾けて皆思案する
- 178 此心現れ出たる事ならば
此心現れ出たる事ならば
誰も背きは更に出来まい

(343)

- 177 明日日は如何言つ道を見るやらな
明日日は如何言つ道を見るやらな
眞の心が現れて来る
- 176 今日の日は何も知らずに誰にても
今日の日は何も知らずに誰にても
世界並なる事であれども
- 175 此話月日の仕事此を見よ
此話月日の仕事此を見よ
心次第に何をするやら
- 174 体内に何が有るやら何の様な
体内に何が有るやら何の様な
者でも知りた者は有るまい

(342)

此^{この}事^{こと}を^を皆^{みな}一^{いち}列^{れつ}は^は真^{しん}実^{じつ}に^に
思^{おも}て^て頼^{たの}めば^ば何^どん^んな^な事^{こと}で^でも

十三号

四月廿八日九ツ時より

1 今日迄は何か心配したなれど
明日日からは往還の道

2 今迄は何んな難渋な道筋も
見えてあるから断りばかり

3 此先は確か請け合う月日には
何んな事でも危なきは無い

(347)

4 段々と何んな話を聞いたとて
世界樂しめ月日働き

5 此からは月日出掛ける働きに
何をすると誰も知らまい

6 日々に世界の処見澄ませば
一列子供いじらしい事

7 月日には段々何んな事でもな
救ける模様急くばかりやで

8 此迄は断りばかり言て置いた
もう此からは断りは無い

五月五日

9 今日迄は何も知らずに人間の
心ばかりで心配をした

10 此からは心確り入れ替えて
神に凭れて陽氣勤めを

(349)

11 したるなら其儘直に確りと
利益現す此を見てくれ

12 此さいか確か利益が見えたなら
後は何時でも皆甘露台

13 此先は月日一度言つた事
何んな事でも背き出来まい

14 月日より言つたる事を消すならば
直に退く承知していよ

15 今迄は内も世界も真実の
心に分り更に無いので

16 月日には第一此が残念な
何と此をば澄ましたるなら

17 此心どうしたならば分るやら
何でも意見せねばならんで

18 意見でも一寸の人では無いからに
多くの胸が此は難し

(351)

(350)

19 如何程に難し事と言つたとて
銘々の子供意見するぞ哉

20 此模様如何したならば良からうぞ
何でも神の残念現す

21 日々に神の胸には段々と
埃一杯積り有れども

22 此埃掃除するのは難しい
勤めなりとも掛かりたるなら

23 心さい真実神が受け取れば
何んな埃も掃除する也

24 一列の胸の内さいすきやかに
掃除仕立てた事であるなら

25 其からは世界中は気が勇む
陽気づくめにひとり成るぞ哉

26 確と聞け高山にても谷底も
見れば月日の子供ばかり哉

(353)

(352)

27 人間も一列子供可愛から
神の残念此思てくれ

28 此迄は何の様な事を見たとも
神の方にはじつと見ていた

29 此度はもう日が詰んであるからな
何んな事でも皆言つ程に

30 月日には世界中を見渡せど
元初まりを知りた者無し

31 此元をどうぞ世界へ教えたさ
其処で月日が現れて出た

32 此度の月日残念と言つものは
容易なる事で無いと思えよ

33 月日には此真実を世界中へ
如何してなりと教えたから

34 其知らず月日言つ事皆消して
後は人間心蔓延る

(355)

(354)

35 此先は月日の残念立腹を
皆晴らすでな此が承知か

36 月日にも残念立腹晴らしたら
後は珍し道を付けるで

37 此道は如何言つ事に思つかな
万互いに救げばかりを

38 世界中互いに救けるならば
月日も心皆引き受ける

39 月日にも心引き受けするからは
何んな事でも働きをする

40 働きも如何言つ事に思つかな
善と悪とを分けるばかり哉

十六日より

41 今日迄は何んな悪事と言つたとて
我身に知りた者は有るまい

(357)

(356)

42 此心神が真実言て聞かす
皆一列は思案してくれ

43 世界中一列は皆兄弟哉
他人と言つは更に無いぞ哉

44 此元を知りたる者は無いのでな
其が月日の残念ばかり哉

45 高山に暮らしているも谷底に
暮らしているも同じ魂

46 其よりも段々使う道具はな
皆月日より貧し物なるぞ

47 其知らず皆人間の心では
何と高低有ると思つて

48 月日には此真実を世界中へ
どうぞ確り承知さしたい

49 此さいか確かに承知したならば
謀反の根は切れて終うに

(359)

(358)

50 月日より真実思ふ高山の
戦いさいか治めたるなら

51 此模様如何したならば治まろう
陽気勤めに出たる事なら

52 此心誰が言つとは思つたよ
月日の心ばかりなるぞ哉

53 此勤め高山にては難しい
神が確り引き受けをする

54 此度は何んな事でも真実に
確か請け合い働きをする

55 神が出て世界中を働けば
何んな勤めも怖み無いぞ哉

56 確と聞け高山やとて谷底を
儘にしられた事であれども

57 此からは月日代りに出る程に
儘にしよならすればして見よ

(361)

(360)

58 今迄と何か文句が違ううでな
此から先は神の儘やで

59 月日より天降りたる心な
何の事やら誰も知らまい

60 第一は立毛作るを救けたさ
肥一条を教えたいから

61 肥でもな如何して効くと思つたよ
心を神が受け取りたなら

62 今迄は真実神が言てあれど
内からしても疑うばかり

63 此度は何を言つても疑うな
此疑えば月日退く

64 此事はあ諍い程も言つて置く
此疑えば真後悔

65 月日より一度言つて置いた事
何時になりても違ふ事無し

(363)

(362)

66 今迄は月日何事言つたとて
皆疑うて言い消すばかり

67 月日には第一此が残念な
何でも此を確と決めるで

68 此からは月日言つ事何事も
背かん様に神に凭れよ

69 したるなら神の方にも真実に
確か引き受け働きをする

70 月日には此程口説き詰めるから
心違えば直に退く

71 真実に心に誠有るならば
何んな救けも違つ事無し

72 此先は立毛の肥を違わん様
どうぞ確り承知してくれ

(365)

(364)

一八七七年(明治十五年)

九月十九日(吉日)より

十九日より

73 今日からは月日の思つ事をばな
何の様な事も皆言い掛ける

74 今迄も大抵話も説いたれど
月日思惑未だ言つて無い

75 此からは何んな話をしたるとも
此を必ず嘘と思つな

(369)

76 何の様な事を言つやら知れんてな
月日の心急えているから

77 此心如何言つ事に思つかな
日本も唐も天竺迄も

78 此間道程余程有るけれど
一夜の間にも働きをする

79 此話人間何と思つている
月日貸し物皆我が子供

80 何時迄も月日じつくりしていれば
何時になりても治まる芽無し

81 其故に月日出掛ける働きに
何処へ出るやら知りた者無し

82 世界中心澄ますと言つからは
一寸の事やと更に思つな

83 何の様な事でも銘々胸の内
澄ましたならば危なきは無い

(371)

(370)

- 91 如何程の剛的たるも若きでも
此を頼りと更に思ふな
- 90 月日には余り真実見兼ねるで
其処で何の様な事もするの哉
- 89 何の様な事をしたるも人間の
心混じると更に思ふな
- 88 其故に月日此度何の様な
事も真実皆して見せる

(373)

- 87 口先で何ぼ真実言つたとて
誰か聞き分けする者は無い
- 86 今年には何んな珍し道筋が
見えて来るやら此知れんてな
- 85 此人を如何言う事で待つなら
一列我が子救済したいから
- 84 段々と月日日々思惑は
多くの人を待つばかりやで

(372)

- 99 胸の内月日心に適つたら
何時迄なりと確と踏ん張る
- 98 月日には何んな処にいる者も
胸の内をば確と見ている
- 97 高山で何の様な者が蔓延るも
此真実を誰も知るまい
- 96 何も彼も何の様な事も言うて置く
何を言つても嘘と思ふな
- 95 此度は何の様な事も人間の
心思案は更に要らんで
- 94 今迄は一列は皆人間の
心ばかりで思案したれど
- 93 何の様な事も真実するからは
胸の内よりひとり澄み切る
- 92 此度は神が表い現れて
自由自在に話するから

(375)

(374)

- 107 此度はもう日が詰んであるからな
何んな仕事も早く掛かるで
- 106 今迄は月日来たらん其処に
じっとしていた事であれども
- 105 其故に月日の残念立腹が
山々積り重なりである
- 104 何も彼も月日如何程口説いても
真に聞いてくれる者無し
- 103 月日には第一此を救けたさ
其処で何の様な事も言うの哉
- 102 此話皆一列の心には
何と思つて思案している
- 101 急ぎ込みも何の事やと思ふかな
立毛作れば水が欲しかる
- 100 月日より日々心急ぎ込めど
側の心に分り無いので

(377)

(376)

108 此先は何の様な道が有るとても
人を恨みな我身恨み哉

109 此話何処の事とも言わんでな
高山にても谷底迄も

110 何の様な事を言うのも救けたさ
其処で色々口説き詰めたで

111 此先は何を言うても何の様な
事でも悪しき事は言わんで

112 真実の救けばかりを急くからに
其処で段々意見したの哉

113 真実に心澄ました其上は
救ける模様早く教える

114 此救け如何言う事であるならば
庖瘡せん様の守り勤めを

115 又救け病まず死なずに弱らんの
証拠守りを早くやりたい

(379)

(378)

116 何も彼も万救けを急くからに
心次第に何んな事でも

117 一列は皆銘々の胸次第
何んな事をか叶わんで無し

118 雨乞も今迄神が真実に
何も言うたる事は無けれど

119 此度は何の様な事も真実を
尋ね来るなら皆言て聞かす

120 月日には何叶わんと言わんでな
皆銘々の心次第哉

(381)

(380)

第十四号

一八七九年（明治十二年）六月より

1 何の様な夢を見るのも月日也
何を言つのも皆月日やで

2 月日より日々心急ぎ込めど
側の心はいずれむばかりで

3 いずむのも如何していずむ事ならば
上には何も知らん故也

4 世界には其を知らずに何事も
皆従うていずみいる也

(385)

5 月日には第一此が残念な
其処で何の様な事もするの哉

6 月日より日々心急えたとして
口ではどうも言うに言われん

7 其故に夢でなりともにをいかけ
早く思案をしてくれる様

8 月日には此残念と言つものは
口で言う様な事で無いぞ哉

9 今日迄は何んな話も段々と
色々説いて来たるなれども

10 何言つても日柄刻限来たらんで
何も見えたる事は無いので

11 其故に何を月日が言つたとて
皆疑うて言い消すばかり

12 月日には第一此が残念な
何でも此を確と現す

(387)

13 今迄は何んな事を言つたとて
直に見えたる事は無けれど

14 此度は三日の内に段々と
世界の話を聞くやら

15 此からは日々月日働くで
何んな仕事をするや知れんで

16 此世にかまい憑き物化け物も
必ず有ると更に思ふな

17 今迄に月日残念山々と
積りて有るを皆晴らすでな

18 此晴らし如何して晴らす事ならば
月日の心皆して見せる

19 今日迄は此世創めて日は経てど
月日真実未だ知ろまいな

20 何の様な事でも月日する事哉
如何な事でも病では無い

(389)

(388)

21 身の内には何の様な事をしたとても
病では無い月日手入り哉

22 世界にはコレラと言つてゐるけれど
月日残念知らず事也

23 世界中何処の人でも同じ事
いずむばかりの心なれども

24 此からは心確り入れ替えて
陽氣づくめの心なる様

25 月日には人間創め掛けたのは
陽氣遊山が見たい故から

26 世界には此眞実を知らんから
皆何処迄もいずむばかりで

27 月日より陽氣づくめと言うのをな
此止めたなら残念えろ成る

28 此話どうぞ確り聞き分けて
早く思案をしてくれる様

(391)

(390)

29 今迄は月日と言つて説いたれど
もつ今日からは名前変えるで

30 今日迄は大社高山蔓延りて
儘にしていた事であれども

31 此からは親が代りに儘にする
此背いたら直に返すで

32 今日迄も親の残念と言ふものは
一寸の事では無いと思えよ

33 此度も未だ世界には何事も
蔓延るばかり何も知らずに

34 人間も子供可愛であらうがな
其を思つて思案してくれ

35 日々に親の思案と言ふものは
救ける模様ばかり思てる

36 其知らず皆世界中は一系列に
何ど悪しきの様に思つて

(393)

(392)

37 何も彼も親の残念よく思え
子供ばかりに意見しられて

38 此からは何んな処の意見でも
親が出ている受ける事無し

39 此意見何の様な者が蔓延りて
言うと思えば直に退く

40 何の様な仕事するにも先より
精一杯に断りて置く

41 今日迄は何んな事をも日々に
心配したる事であれども

42 明日からは何んな事をば見たとても
何を聞いても楽しみばかり

43 此迄は高山からは何も彼も
何んな指図も受けたなれども

44 此先は何の様な事を言われても
親の指図や更に受けんで

(395)

(394)

- 52 世界中は親のたあには皆子供
可愛余りて何を言つやら
- 51 此話疑う心有るならば
承知していよ何んな道やら
- 50 心さいすきやか澄んだ事ならば
何んな事でも楽しみばかり
- 49 何の様な事が有りても真実の
心次第に怖い事無し

(397)

- 48 世界中一列は皆何処迄も
何んな事を有るや知れんで
- 47 此からは親の思ふ事はかり
一言言えば此違わんで
- 46 もう今日は日が十分に詰んである
何んな事でも其儘にする
- 45 今迄は日柄も一寸来たらんで
何んな事でもじっとしていた

(396)

- 60 此さいか始め掛けたる事ならば
何んな者でも親に凭れる
- 59 其からは親の心が勇み出で
何んな事でも始め掛けるで
- 58 此からの道は何でも珍しい
此道通り抜けた事なら
- 57 今日迄も何の様な道も段々と
通り抜けては来たるなれども

(399)

- 56 此道は親が頼みや一列は
どうぞ確り承知してくれ
- 55 此さいか確かに承知したならば
何時迄いても陽気つくめ哉
- 54 此度は何でも彼でも真実の
親の心を知らしたから
- 53 此世界高山にても谷底も
親のたあには子供ばかり哉

(398)

- 68 働きも何の事やら知らまいな
世界の心皆現すで
- 67 此話何の事やら知らまいな
親の働き皆言つて置け
- 66 何にても言わずにいては分らんで
何か委細を皆言て聞かせ
- 65 さあ今日は何の話も段々と
細かく言えもう節哉

(401)

- 64 明日からは親が一端出る程に
何んな事でも返ししてやる
- 63 今迄は内の者にも色々に
心配掛けて来たるなれども
- 62 さあ掛かれも此からの道筋は
何んな者でも危なきは無い
- 61 此道を付け様とてに仕捲え
何んな者でも未だ知らまいな

(400)

69 此をばな現れ出すと言つものな
銘々の口で皆言い掛ける

70 何の様な事でも我身口いより
言つ事ならば是非は有るまい

71 此からは銘々に何も言わいでも
親が入り込み言つて掛かるで

72 此先は何んな者でも真実に
胸の掃除を皆して掛かる

73 此掃除如何してすると思つかな
何んな意見をするや知れん

74 何の様な事がありても案じなよ
何か万は親の意見哉

75 口先で何ば真実言つたとて
聞き分けが無い親の残念

76 其故に親が体内入り込んで
何んな事をばするや知れん

(403)

(402)

77 何の様な切ない事がありてもな
病では無い親の残念哉

78 此話何処の事とも言わんでな
親のたあには皆我が子やで

79 真実の親の残念出たならば
此治め方誰も知るまい

80 此をばな誠真実有るならば
何んな事でも言つて聞かする

81 何の様な事を言つやら知れん
此背いたら直に退く

82 此迄は何をしたとて止められて
背くばかりの事であるから

83 今日の日は何の様な事をしたとて
何を言つても背き無き様

84 此道はくれぐれ頼み置く程に
親が引き受け案じ無いぞ哉

(405)

(404)

85 此事は何の事やと思つなよ
勤め鳴物早く欲しいで

86 もう今日は何んな事をばしたとて
何も案じな親の請け合い

87 今迄は上には何も知らんから
差し止めばかり意見したれど

88 此度は何んな者でも敵わんで
言つ心なら親が退く

89 此事を早く心を確りと
定めを付けて早く掛かれよ

90 何も彼も早く勤めの仕捲え
親の請け合い怖み無いぞ哉

91 此をばな心定めて思案して
早く人衆の模様急ぐで

92 早々と心揃つて確りと
勤めするなら世界治まる

(407)

(406)

第十五号

一八八〇年(明治十三年) 一月より

第十五号

- 1 今日迄は何の事でもじつくりと
言わずにいたる事であれども
- 2 もう今日は何でも彼でも言う程に
親の残念此思てくれ
- 3 今日迄は何を言つても人間の
心の様に思っていたれど
- 4 さあ今は何を言つても人間の
心有るとは更に思つな

(411)

- 5 何の様な事を言つやら知れんな
何を言つても承知してくれ
- 6 此度は何んな試しをするやらな
此で確り心定めよ
- 7 此話誰が事とも言わんでな
皆銘々の心定め哉
- 8 如何程に切ない事が有りてもな
親が踏ん張る承知していよ
- 9 此からは親の言う事確りと
承知してくれ案じ無いぞ哉
- 10 明日からは親が働きする程に
何んな者でも背き出来まい
- 11 今迄も四十三年以前から
親が現れ始め掛けたで
- 12 今日迄は大抵残念も幾度も
じつとしていた事であれども

(413)

(412)

- 13 さあ今日は月日の腹が弾けたで
控えていたる事で有れども
- 14 今迄は村やと思つてじつくりと
未だ治まりていたるなれども
- 15 此度は何の様な心いる者も
見定め付けて直に働く
- 16 此程に残念積りて有るけれど
心次第に皆救けるで
- 17 如何程に残念積りて有るとても
踏ん張り切りて働きをする
- 18 今日の日は何を言つやら知れんな
親の残念皆現すで
- 19 今迄は人の心の真実を
知りたる者は更に無けれど
- 20 さあ今日は何んな者でも真実の
胸の内をば確が現す

(415)

(414)

21 此さいか皆現した事ならば
胸の掃除がひとり出来るで

22 今日からは何んな話を仕掛けても
何を言つても承知してくれ

23 段々と何を言つやら此知れん
何んな事でも思惑をする

24 今迄は四十三年以前から
足を悩めた此が心配

25 此度は何でも彼でも此をばな
元の通りにして返すでな

26 此話何を月日が言つたとて
何んな事でも背き無き様

27 此からの親の頼みは此ばかり
他なる事は何も言わんで

28 此事を何を頼むと思ふかな
勤め一条の事ばかりやで

(417)

29 此勤め此が此世の創まりや
此さい叶た事であるなら

30 さあ今日は親の言つ事何事も
側の心に背き無き様

31 側なるの心違えば是非が無い
其処で諄々言つて置くぞ哉

32 今日の日は何様の事も世界には
知りたる人は更に無けれど

33 親の目に確り見えてある程に
何んな事やら誰も知ろまい

34 此世を創めてからに今迄は
誰でも知らぬ事ばかりやで

35 其事を教えたいから段々と
其処で何の様な事もするの哉

36 何も彼も何の様な事も言て置いて
其から親が働きをする

(418)

37 働きも何んな事やら知るまいな
世界中は親の身体哉

38 今迄の親の残念知らしたさ
其処で此度皆して見せる

39 何の様な事をするやら知れんでな
皆一列は承知していよ

40 此度の残念口説きの此話
皆一列は何と思てる

41 此元は四十三年以前から
偉い試しが掛けてあるぞ哉

42 此さいか確り承知したならば
何んな事をが叶わんで無し

43 世界中を皆一列を救けたさ
其処で試しが偉い事やで

44 今日迄は何の様な道も通り抜け
じつとしていた事であれども

(421)

(420)

- 45 もう今日は何でも彼でも眞実をして掛かるでな承知していよ
- 46 今迄と道がころりと變るでな皆一列は心定めよ
- 47 此道は内も世界も隔て無い世界中の胸の掃除哉
- 48 此世を創めてからに今日迄は本眞実を言つた事無し
- 49 今日の日は本眞実を言い掛けるどうぞ確り承知してくれ
- 50 此話四十三年前から偉い試しが此が一条
- 51 此試し何の事やと思ふかな勤め一条急ぐ模様やで
- 52 此勤め如何言う事に思ふかな鳴物入れて人衆の模様

(423)

(422)

- 53 此勤め何んな者でも思案せよ此止めたなら我身止まるで
- 54 此世を創め掛けたも同じ事無い人間を創め掛けたで
- 55 此さいか創め掛けたる事ならば何んな救けも皆請け合つで
- 56 此事は確り承知せんならん此止めたなら直に退く
- 57 今迄は高山やとて喧々と儘にしていた事であれども
- 58 此からは如何程高い山でもな谷底儘に更に出来まい
- 59 此先は谷底にては段々と多く用木が見えてあるぞ哉
- 60 段々と用木にては此世を創めた親が皆入り込むで

(425)

(424)

- 61 此世を創めた親が入り込めば何んな事をばするや知れんで
- 62 何の様な事をしたとて案じなよ何か万は親の請け合い
- 63 此事を早く心を確りと定めを付けて早く掛かれよ
- 64 今日迄は何んな道やら誰にても知りたる者は更に無けれど
- 65 もう今日は眞の心を段々と皆現すで承知していよ
- 66 親の目に適つた者は日々に段々心勇むばかり哉
- 67 親の目に残念の者は何時に夢見た様に散るや知れんで
- 68 此話何処の事とも言わんでな世界中は皆我が子やで

(427)

(426)

69 一列の子供は可愛ばかり也
何処に隔ては更に無けれど

70 確と聞け心違えば是非が無い
其処で段々手入りの哉

71 此事は高山にても谷底も
油断無き様に心定めよ

72 さあ頼む何を頼むと思うかな
早く鳴物寄せて稽古

73 此迄は何んな事でもじつくりと
未だ治まりていたるなれども

74 もう今日は何でも彼でも早々と
勤めせえねばならん事やで

75 今迄は何んな事でも段々と
色々頼み掛けてあれども

76 何事を頼んだとて誰にても
聞き分けが無い親の残念

(429)

(428)

77 此度の残念口説きの此話
どうぞ確り聞き分けてくれ

78 今日の日は親が何事言つたとて
何んな事でも背き無き様

79 今迄は何んな話をしたとて
何を言つても匂いばかり哉

80 今日の日の話と言つは節哉
もう其儘に直に見えるで

81 此話四十三年前から
胸の残念今晴らすでな

82 其知らず内なる者は何も彼も
世界並なる様に思つて

83 此道は四十三年以前から
真難渋な道を通りた

84 其事を今迄誰も知らいでも
此度此を皆晴らすでな

(431)

(430)

85 此晴らし如何して晴らす事ならば
勤め一条で皆現すで

86 此勤め親が何事言つたとて
何んな事でも背き無き様

87 此ばかりくれぐれ頼み置く程に
後で後悔無き様にやで

88 此度の勤め一止めるなら
名代なりと直に退く

89 此話何と思つて側な者
もう一息も待ちていられん

90 早々と鳴物也と出し掛けよ
勤めばかりを急えているから

(433)

(432)

第十六号

一八八一年（明治十四年）四月より

- 1 今迄は此世創めた人間の元なる事を誰も知らまい
- 2 此度は此元なるを確りとどうぞ世界へ皆教えたい
- 3 此元は神楽兩人勤めはな此が真実此世創まり
- 4 此度の神楽と言つは人間を創め掛けたる親であるぞ哉

(437)

- 5 此元を知りたる者は無いのな此真実を皆教えるで
- 6 今迄も日々口説き段々と言つて聞かした事はあれども
- 7 もう今日は如何程月日言つたとて一列心分り無いので
- 8 其故にもう節が来たるから是非なく今は返しするぞ哉
- 9 此返し一寸の事とは思ふなよ彼方此方に多く見えるで
- 10 此世の人間創め元なるを何処の人でも未だ知ろまいな
- 11 此度は此真実を世界中へどうぞ確り皆教えたい
- 12 確と聞け此元なると言つのはなくにとこたちにもたり様哉

(439)

- 13 此お方泥水中を見澄まして魚と巳とを側い引き寄せ
- 14 此度の残念と言つは芯から哉此を晴らす模様無いかな
- 15 此事を神が確り引き受ける何んな返しもすると思えよ
- 16 此返し見えたるならば何処迄も胸の掃除がひとり出来るで
- 17 今迄は何の様な事も見許してじつとしていた事であれども
- 18 今日の日は何つ日が詰んであるから何んな事でも直に返すで
- 19 此処止める心で来るならば其儘何処い月日出るやら
- 20 出るのも何んな事やら知ろまいな月日迎いに出るで承知せ

(441)

(438)

- 13 此お方泥水中を見澄まして魚と巳とを側い引き寄せ
- 14 此度の残念と言つは芯から哉此を晴らす模様無いかな
- 15 此事を神が確り引き受ける何んな返しもすると思えよ
- 16 此返し見えたるならば何処迄も胸の掃除がひとり出来るで
- 17 今迄は何の様な事も見許してじつとしていた事であれども
- 18 今日の日は何つ日が詰んであるから何んな事でも直に返すで
- 19 此処止める心で来るならば其儘何処い月日出るやら
- 20 出るのも何んな事やら知ろまいな月日迎いに出るで承知せ

(440)

21 今日きょうの日はもう十分にじゅうぶんに詰つんである
何どの様なやうな道みちが有あるや知しれんで

22 世界中せかいじゅう皆みな一列いちれつは確しかとせよ
何時なんどき月日つきひ連つれに出でるやう

23 今日きょうの日は珍めづし事ことを言いひ掛かける
何なにを言いつとも誰たれも知しるまい

24 世界せかいには皆みな何処どこ迄までも同おなじ事こと
子供こども片かた付つけ拵こしらえをす

25 如何いか程ほどに拵こしらへたと言いつたとて
其先そのさきなるは誰たれも知しるまい

26 月日つきひには何どんな思惑おもわく有あるやらな
此道筋このみちすじは知しりた者もの無なし

27 此先このさきは何どの様なやうな夢ゆめを見みるやらな
文句ぶんこう変かりて心こころ勇ゆうむで

28 何どの様なやうな珍めづし夢ゆめを見みるやらな
此これを合図あひすに勤つとめめに掛かかれ

(443)

(442)

29 今日きょうの日は何どの様なやうな事ことも聞きいていいる
何時なんどき文句ぶんこう変かる事ことやう

30 何どの様なやうな事ことが有ありても恨うらみなよ
皆みな銘々めいめいにする事ことやでな

31 月日つきひには皆みな一列いちれつは我わが子こなり
可かわ愛い一杯いっぱい思おもていれども

32 銘々めいめいにする事ことばかり是ぜ非ひは無ない
其処そこでじつくり見みているのやで

33 今日きょうの日は何ども知しらずにいるけれど
明日あす日にちを見みよ偉えらい往還おうかん

34 此道このみちが見みえたるならば何どの様なやうな
者ものでも敵かなう者ものは有あるまい

35 月日つきひには何どんな思惑おもわく有あるやらな
此心このこころをば誰たれも知しるまい

36 此これをばな見みえ掛かけたなら何処どこ迄までも
胸むねの内うちをばひとり澄すみ切きる

(445)

(444)

37 此これからは此世このよ創はじめて何なんも彼かも
無ない事ことばかり言いひ掛かける也

38 今迄いままでは人ひとの心こころの真実しんじつを
誰たれか知しりたる者ものは無なけれど

39 此度このたびは神かみが表おもて出でてるから
何なんな事ことでも皆みな教おしえるで

40 此話このはなし何処どこの事こととも言いわんでな
身みの内障うちわづらり此これで知しるす

41 こんな事こと何なんで言いつやと思おもつなよ
可かわ愛い余ありて言いつ事ことやでな

42 何どの様なやうな事ことでも我身わがみする事ことに
神かみの知しらんと言いう事ことは無ない

43 其故そのゆえに何なんも万よろずを断ことわりて
其上そのうえ掛かかる仕事しじなるぞ哉

44 今迄いままでは何様なんようの事こともじつくりと
控ひかえていた事ことであれども

(447)

(446)

45 確と聞け今迄なるの話はなに
何を言つても聞いたばかり哉

46 今日の日は道が急いでいるからな
何んな事でも早く見えるで

47 其故に出掛けてからはどむならん
其処で一系列思案する様

48 今迄も神の口説きは段々と
色々説いて来たるなれども

49 如何程に口説いたとても誰にても
聞き分けが無い親の残念

50 此処迄も容易な口説きや無い程に
此度こそは思案する様

51 此話何と思つて聞いている
積み重なり上の事やで

52 今日の日神の残念立腹は
容易なる事で無いと思ふよ

(449)

53 月日より無い人間や無い世界
創め掛けたる親であるぞ哉

54 其処何も知らざる子供にな
太鼓止められ此残念見よ

55 此度は此返しをばする程に
皆何処迄も承知していよ

56 今日迄は何も知らずにいたけれど
さあ見え掛けた偉い楽しみ

57 此道は何んな事やと思ふかな
世界一系列胸の掃除哉

58 此事は何の事やと思っている
神の残念晴らす事やで

59 此先は何処の人とも言わんでな
胸の内をば皆見ているで

60 今日からは月日出掛ける働きに
何んな事をばするや知れんで

(451)

61 今からの月日働きするのはな
何処でするとも誰も知るまい

62 高山も谷底迄も世界中
一列を皆彼方此方と

63 月日より世界中をば働けば
此治め方誰も知るまい

64 其故に此鎮め方一寸知らず
一列早く思案する様

65 勤めでも他の事とは思ふなよ
救けたいのが一条ばかりで

66 其知らず皆誰にても段々と
何ど悪しきの様に思つて

67 人間は浅ない者であるからな
何を言つとも芯を知らずに

68 今日迄は何んな事でも言わなんだ
じつとしていた此残念見よ

(453)

(448)

(450)

(452)

69 此からは神の思惑するからは
 何んな事をばするや知れんで

70 今迄は何も言うたり思つたり
 儘にしていた事であれども

71 此先は神が支配をするからは
 何んな事でも儘に出来んで

72 人間の目には何も見えねども
 神の目には皆見えてある

73 抑えをやるのは暫し待ちてくれ
 泥水中い嵌める如く哉

74 今迄は何んな事でも言わなんだ
 今日は何でも言わねばならん

75 もう今日は何でも彼でも見えるでな
 刻限来たら月日連れ行く

76 今日の日はもう十分に詰んで来た
 何時連れに出るや知れんで

(455)

(454)

77 連れ行くも一寸の事では無い程に
 多く見えるが誰も知るまい

78 如何程の高い処と言つたとて
 もう今日からは文句変わるで

79 さあ思案此から心入れ替えて
 思案定めん事にいかんで

(456)

第十七号

1 今迄は何の道やら知れなんだ
いままで なん みち
きょう こと ちから ちから
今日から先は道が分るで

2 此道は如何言う事に思ふかな
このみち どうゆ こと おも
かんどうだい いちじや
甘露台の一条の事

3 此台を如何言う事に思っている
このだい どうゆ こと おも
これにほんのいち たからや
此は日本の一の宝哉

4 此をばな何と思つて皆の者
これ なん おも みな もの
このもとを誰も知らまい
此元なるを誰も知らまい

(459)

5 此度は此元なるを真実に
このたび このもと しんじつ
どうぞ世界へ皆教えたい
どうぞ せかい みなおし

6 此元はいざなぎいいといざなみの
このもと いざなぎいいといざなみの
身の内よりの本真中哉
み のうちよりのほんまなかや

7 其処で世界中の人間は
そのところ せかいじゅうにんげん
皆其ちばで創め掛けたるで
みなその か

8 其ちばは世界一列何処迄も
その せかいいちれつどこまで
此は日本の故郷なるぞ哉
これはほんのこきやうなるぞや

9 人間を創め掛けたる証処に
にんげん はじめかけたるしやうじ
甘露台を据えて置くぞ哉
かんどうだいをさえておくぞや

10 此台が皆揃いさいしたならば
このだい みなそろ
何んな事をが叶わんで無し
こと なをがかなわんでなし

11 其迄に世界中を何処迄も
それまで せかいじゅうをどこまで
胸の掃除をせねばならんで
むねのそうじをせねばならんで

12 此掃除何処に隔ては無い程に
このそうじどこへだてはなしほど
月日見分けていると思えよ
つきひみわけていとおもえよ

(460)

13 月日には何んな処にいる者も
つきひにはどこにいるもの
心次第に皆受け取るで
こころしだいみなうと

14 今迄は何んな心でいたるとも
いままで どんなこころでいたるとも
一夜の間にも心入れ替え
いちやのあいだにもこころいれか

15 真実に心すきやか入れ替えば
しんじつにこころすきやか入れか
其も月日が直に受け取る
それつきひがすくうと

16 月日には世界中は皆我が子
つきひにはせかいじゅうはみなわがこ
可愛一杯此が一条
かわいいつぱいこれいちじや

17 今迄は何んな者でも胸の内
いままで どんなものもむねのうち
知りたる者は更にあるまい
しりたるものはさらにあるまい

18 此度は何んな処にいる者も
このたび どんなところにいるもの
胸の内をば皆言て聞かす
むねのうちにみなゆてきかす

19 此迄は壁一重にて隔てたら
これまではかべひとへでへだてたら
何を言つても一寸も知らまい
なにをいってもいちすんも知らまい

20 今日からは横目振る間も無い程に
けふからはよこめふるまなしほど
夢見た様に何をするやら
ゆめみたやうになにをすやら

(463)

(462)

21 今迄の月日残念と言つものは
なかなかに一寸の事で無いぞ哉

22 今日迄は何も知らずにいたけれど
さあ見えて来た偉い本道

23 此道早く見とつて急ぎ込んだ
さあ此からは陽気づくめ哉

24 此話如何言つ事に思つか
筆の先がな見えて来たなら

25 今迄は何の様な事も聞いていた
此度こそは残念晴らすで

26 此晴らし如何言つ事に思つか
何時何処で退くやらな

27 此迄の長い道中此残念
一寸の事では無いと思えよ

28 此からは此返しをばする程に
皆一列は承知していよ

(465)

(464)

29 世界中何処の者とは言わんでな
月日確り皆見ているで

30 何の様な事を言つても思つても
月日知らんと言つ事は無い

31 此先は何の様な事をするにもな
月日先へと断りて置く

32 此からは月日残念出たならば
何の様な事が有るや知れん

33 今日の日は何の様な事も話んで来た
神の残念晴らす見えていよ

34 今迄は此世創めた人間の
元なるちは誰も知らんで

35 此度は此真実を世界中へ
どうぞ確り教えたから

36 其故に甘露台を創めたは
本元なるの処なるの哉

(467)

(466)

37 こんな事創め掛けると言つのもな
世界中を救けたいから

38 其をば何も知らざる子供にな
取り払われた此残念はな

39 確と聞け此先なるは何の様な
返し有るやら此知れん

40 月日より此残念と言つのはな
なかなかに一寸の事で無いぞ哉

41 返しでも一寸の事とは思つなよ
何んな事をば月日するやら

42 此話何と思つて皆の者
神の残念偉い事やで

43 今迄は何の様な道も段々と
通り抜けては来たるなれども

44 もう一寸の刻限来たらん其故に
じっとしていた事であれども

(469)

(468)

45 今日の日はもう十分に詰んで来た
刻限来たら直に返すで

46 此日はな何時の事やと思ている
廿六日が来たる事なり

47 其からは何でも彼でも真実の
心其々皆現すで

48 こんな事何で言うやと思うなよ
可愛余りて言う事やでな

49 月日には世界中の子供はな
可愛ばかりを思っているから

50 其故に世界中を何処迄も
胸の掃除をしたい故から

51 此掃除如何言う事に思っている
救けばかりを思っているから

52 救けでも悪しき治する迄や無い
珍し救け思っているから

(471)

(470)

53 此救け如何言う事に思うかな
病まず死なずに弱り無き様に

54 こんな事今迄何処に無い事哉
此証拠を知らしたさやで

55 此迄は何処尋ねても無い事哉
此度神が創めたさやで

56 今日迄は何んな道やら知れなんだ
此から先は道を知らする

57 此道は如何言う事に思うかな
月日残念一条の事

58 此残念何の事やと思うかな
甘露台が一の残念

59 此残念一寸の事では無い程に
何んな返しを月日するやら

60 何の様な事が有りても恨みなよ
皆銘々にして置いたの哉

(473)

(472)

61 此先は世界中は何処迄も
高山にても谷底迄も

62 此からは世界一列段々と
胸の掃除をすると思えよ

63 此掃除何と思つぞ皆の者
神の心を誰も知るまい

64 月日には何んな残念が有るとても
今迄じつと見許していた

65 さあ今日は日も十分に詰んで来た
何でも返しせずらいられん

66 此返し何の事やと思っている
神の残念ばかりなるぞ哉

67 此残念一寸の事とは思つなよ
積み重なり上の事やで

68 月日には世界中は皆我が子
可愛一杯思っていれども

(475)

(474)

69 其それ知しらず皆みな一列いちれつは銘々めえめえ
埃ほこりばかりを思案しやんしている

70 此この心こころ神かみの残念ざんねん思おもてくれ
どうも何なんとも言いうに言いわれん

71 今迄いままでの様ようなる事ことは言いわんでな
此これから先さきは悟さとりばかり哉や

72 此この先さきは何なにを言いうやら知しれんでな
どうぞ確しかり思案しやんしてくれ

73 里々やとやと田々たおと音々おと々々びやうびやう平様々々へいよう

74 此この話はなし合あ図ず立たて合あい出でたならば
何なにに就ついても皆みな此この通とおり

75 此これをばな一列いちれつ心こころ思案しやん頼たのむで

註釋

【あ】

あかん：うまくいかない、だめ。不行、行不通。

あ諄い：諄い。反覆好幾次，囉唆、叨

嘮。

あこ：あそこ。那裡。

あでない、浅のう：浅はか、浅い。淺薄，

思慮不周密。

い：御筆先裡常出現的助詞「い」相當

於「へ」。例：「表い現れて」。

いずみ、いずむ：「勇む」的相反，不踴

躍、萎靡不振的樣子。

いずまん：いずまない（「いずむ」的否

定）。

一端：最先，走在最前面。

言わいでも：言わなくても。不用說。

打ち分け場所：教祖曾經教導，以後世

界上將有許多「打ち分け場所」來宣

揚「原地之理」。無論患什麼疾病，只

要依序前往「打ち分け場所」並最後

回到原地的話，任何疾病都能得到救

治。

え：常代替「い」使用。例：急えて↓

急いて。

えろ：とても。非常。

治まる芽：平息、和平的開端。「芽」指事

情的開端。

【か】

壁一重：僅隔一層牆壁，指非常接近。

かな：語助詞。相當於「吧」「呀」。

かなつ：有三種意思。①「叶つ」：實現。

②「適つ」：符合，滿足。③「敵つ」：

比得上，能夠匹敵。原文裡的「かな

う」有時同時包含兩個（以上）的意思。

除了附加漢字的意思以外，應同時考

量另外兩者的意思。

かまい：祟り。作祟。

唐：中國的唐朝，指住在遙遠、陌生國

度裡，不知道父母神教導的人。

かんでき：容易生氣。

腐る芽：開始要腐壞的樣子。

□記：指長久流傳於世的事情。

断り：除一般常用的「拒絕」及「事先

告知」以外，也包含「神意」、「教導」

之意。由平假名的原意「事割り」來看，

指的是「有條理地判別是非」。

拵え：つくる。作成、製作。

コレラ：霍亂。教祖的時代，霍亂是相

當嚴重的傳染病。

子供片付け：指嫁女兒、娶媳婦的事情。

芥：污穢不潔之物，指心中夾雜灰塵。

こら：これ。這麼。

ころり：形容事情馬上就要從一個狀態

改變成另一個狀態。

【さ】

さ：接在動詞後使用的さ、例如「見せた

さ」、「教えたさ」時，與「見せたい」、

「教えたい」相同。

さい、さいか：さえ。只有、只是。

さして：させて。讓、使。

悟り：每個人的領悟。有時是指「不聽

神的話，只想著人的事情」，有時是指

「領悟神意」。

確と：確り。確實地，好好地。

しけん：「悄気る」。意志消沉，軟弱無

力的樣子。

しこりて：橫行霸道，猖獗的樣子。

しぶとい：頑強，倔強，有毅力。

しもた：しまった。指一個狀態完成、

結束。

しん：用漢字表示，有「真」、「芯」、「心」

等用法。編輯時依句子判斷，但都有

「最重要」、「最核心」的意思。

心学：修養心性的學問。

真の柱：依據前後文有不同意思。①「甘

露台」。②「真柱（初代真柱真之亮先

生）。③「教理的中心思想」。

出世：心靈成長，超越人世的境界，進

入父母神的世界。

水囊：將水濾淨，除去水中雜質的工具。

すがら：路途。道すがら：至今走過的

路途。

すきやか：すつきり。徹底地，痛快地。

せしなさい。命令。例：得心せ、思

案せ。

せん：しない。「する」的否定。

せえねば：しなければならぬ。必須

…。

切なみ：切ない。難受、難過。

是非ない：沒有辦法，不得已。

【た】

たあに：〜にとつて。對…來說…。

高山：擁有權勢威望的人，自認為地位

比別人高的人，或不知民間疾苦、跋

扈翼張的政治人物。

楽しゆんで：楽しんで。歡心等待。

試し：試験，嘗試。父母神顯現出不可

思議的祐護給人看。藉由發生在人身上的事情，讓人們了悟父母神確實是創世創人的真實父母。

一寸：些許，稍微。

跛：指秀司先生跛腳的事。

支える：堵塞，不順暢。

出端：最初，一開始。

天竺：印度的舊稱。與「唐」同樣指住在遙遠、陌生國度，不知道父母神教導的人。

如何せこうせ、如何せえ：這個那個、

導的人。

這樣那樣，不確定、猶豫不決的樣子。

唐人：請參考「唐」項。

どうど：何とか。①請求。②無論如何。

どうむ：どうも。實在是、好像是。

年を寄る芽：變得年老，顯出老態。

とて：①：であつても。即使是。②：

陳ねた木：陳年老木。

と思つて。想、認為是。③：としても。縱使、雖然。

どむならん：どうにもならない。行不通、沒有辦法。

【な】

な：①單獨出現在句尾或句中，用來加強語氣。②接在動詞後的「な」則為動詞的否定型。

等：など。等等。

繩棟：蓋房子時的第一步驟是用繩子丈量尺寸。用來比喻「開始康樂建設」。

日本：指知道父母神教導的人。

逆上せる：容易沉迷、激動，喪失理智。

【は】

蔓延る：霸道橫行的樣子。

ひとり：ひとりでに。自然而然地。

疱瘡：天花。教祖時代常見的疾病。

はじめる：「創める」「始める」或是「初る」，在平假名沒有特別的區別。

編輯時，含有「開始」意思時用「始」；「初次」、「創造」的意思較的話則選用「初」或「創」。（但彼此間實無明顯區別）

【ま】

まい：動詞的否定形。例：知ろまい、あるまい、かないまい。

儘：御筆先裡除一般使用的意思外，也有如下意思：思いのままにする：①依照父母神意。②依然用人的方式來考量，不理會父母神意。

間々：まま總是、一直。

道教せ：みちお指路牌、導引人往正確方向前

進的路標。

見とふて：み見たいと思つて。おも想看見某

某事情。

名代：みよくだい代理，指代理人。

銘々の社：めいめえやし每個人的身體。

模様：もよう過程，手段，程序，準備。事情

從原本的樣子變成另一個樣子的過程。

文句：もんく詞句說話的內容。「文句もんく變える」、

「文句もんくが違つちが」指事情將有所改變。

【や】

山中：やまなか不知道父母神教導的人。

やれ、やろ：語助詞。大約相當於「…吧」

之意。

【る】

立毛：りゆうけ農作物，特指農作物的生長。

【わ】

分る芽：わかめ稍稍了解、明白。例：「分る

芽めは無なし」一點也不了解。（一點了

解的樣子也沒有）

【を】

をば：強調「を」。

をびや：指生小孩的事情。をびやゆる

し：安産神許。

